

四季折々 2007

■ 四季折々 Mutsu 2007 季節の便り 神戸便り

■ 神戸で 思いつくまま 2007 From Kobe

Mutsu.Nakanishi Home Page

<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

2008.1.15.



By Mutsuo Nakanishi



■ 四季折々 Mutsu 神戸便り 2017 のpage^
■ 神戸で 思いつくまま 2017 の page^

2007年 四季折々 総覧

Monthly Mail 四季 Mutsu & 思いつくまま

四季折々【6】

- 四季折々 Mutsu 【6】 2007 mutsu2007. pdf
- 神戸で 思いつくまま【6】 2007 kobe2007. pdf

From Kobe

1. 2007年1月 きままなひとりごと 2007.1.25.
2. 「発掘された日本列島2006」展 大阪 2007.1.17
3. 「縄文時代が教科書から消えつつある」にびっくり 2007.3.5.
4. 「兵庫」の鎖 - 「兵庫鎖」を調べていて- 2007.4.15.
兵庫鎖・「兵庫」のルーツとゴム輪など・知らないことが次々と
5. 「この春 風来坊で感じた地方の疲弊 2007.6.1.
地方格差・公共交通の崩壊がすすんでいます
そして 中央では絶対見えないほころびが・・・」
6. 「8月 広島で感じたこと」 2007.8.25.
風化させてはならないのは 何 为什么呢
7. 「この夏であった不思議な石」 2007.8.25.
「カンカン石」と呼ばれるサヌカイトと蛇紋岩
8. この秋 感激したこと おもいつくまま 2007.12.1.
 1. エジプト ツタンカーメンの鉄につながるかも???
たたらルーツである塊錬鉄
 2. 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激
 3. 大阪の西の守り 四層の天守閣と3層櫓の素晴らしい尼崎城の姿(復元模型)

四季折々 Mutsu 2007 神戸便り

■ 四季折々 Mutsu 2007 季節の便り

■ 四季折々 Mutsu 神戸便り 2005

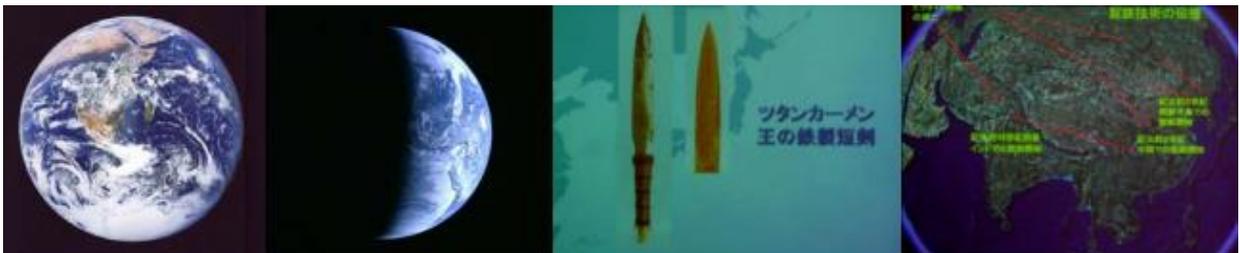
■ 神戸で 思いつくまま 2005 の pageへ

Monthly Top Page 1月~12月 季節の便り



From Kobe 2007 思いつくまま

- | | |
|---|------------|
| 1. 2007年1月 きままなひとりと | 2007.1.25. |
| 2. 「発掘された日本列島2006」展 大阪 | 2007.1.17 |
| 3. 「縄文時代が教科書から消えつつある」にびっくり | 2007.3.5. |
| 4. 「兵庫」の鎖 - 「兵庫鎖」を調べていて-
兵庫鎖・「兵庫」のルーツとゴム輪など・知らないことが次々と | 2007.4.15. |
| 5. 「この春 風来坊で感じた地方の疲弊
地方格差・公共交通の崩壊がすすんでいます
そして 中央では絶対見えないほころびが・・・」 | 2007.6.1. |
| 6. 「8月 広島で感じたこと
風化させてはならないのは 何 なのでしょうか | 2007.8.25. |
| 7. 「この夏であった不思議な石」
「カンカン石」と呼ばれるサヌカイトと蛇紋岩 | 2007.8.25. |
| 8. この秋 感激したこと おもいつくまま | 2007.12.1. |
1. エジプト ツタンカーメンの鉄につながるかも???
たたらルーツである塊煉鉄
 2. 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激
 3. 大阪の西の守り 四層の天守閣と3層櫓の素晴らしい尼崎城の姿(復元模型)



2007 四季折々 Mutsu

1.

2007年 年賀 「IRON ROAD 和鉄の道」

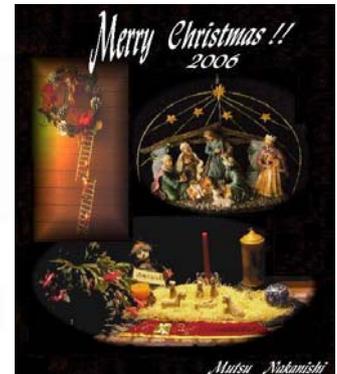
本年が穏やかで平和な年であることを願っています



丁亥(東哉作)と春飾り
(Kikuko キャップリサイクル)



今治高橋小夜ノ谷(2) 製鉄遺跡
四国で初めて出土した古代の製鉄炉



我が家のクリスマス クリブ

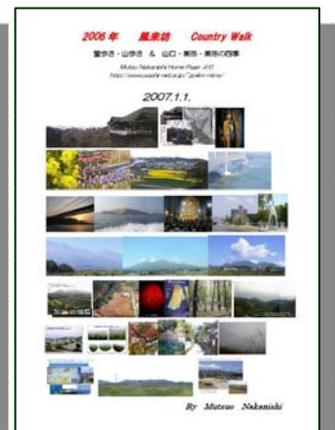
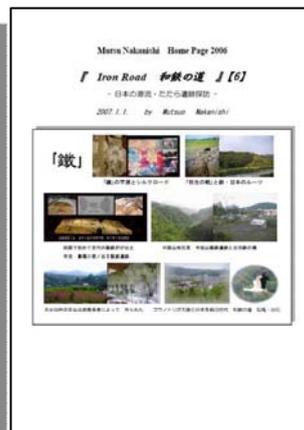
ギスギスした余裕のない世相 厳しい時代 「かけがえのない命 生かされ、生きてゆく」
「広島平和の祈り」から発信されたメッセージが心に響きます
本年もよろしくお祈りします

「命ドウ宝・ヌチドゥタカラ (命を大切に)」 沖縄の古いことばを今年の夏知りました。
「いのち」ということばが語られる時は「戦争」「平和」と重ねられはるか遠い世界の話でしたが
今ほどこの「いのち」のことばが現実味を持って身近に語られたことはない。
「学校で 会社で そして 社会で そして 世界で
「命を大切に」のことばとは裏腹に これほど粗末に扱われているのか
時代が変わる 時代により遅れる そんなことばの前に 命の大切さが切り捨てられる。
IT・グローバル・国際競争力など心地よい先端性のことばの下に 時代の担い手が それに追い討ちをかける
声を大きく再度 「かけがえのないいのち 命大切に 命ドウ宝」
一つ一つの命にかかわり、世界に手をかしたい

2007.1.1. Mutsu Nakanishi

一年ホームページにお付き合いいただいて ありがとうございます。
昨年一年間掲載してきたホームページを整理 また、一冊 2006 年版 「2006 和鉄の道」がファイルに加わりました
2006年 鉄 をキーワードのCountry Walk
おかしな点もままあるのですが、手にとってみると 自分にとってはおもしろい記録集になりました。

今全盛のブログからすると ちょっと時代遅れ気味ですが、後から読み返して見ると 見えるものもあるかも・・・
そんなつもりで、元気なしるし 引き続き「鉄」をキーワードに気楽に今年も続けようと思っています。



■ 2006年 和鉄の道

昨年歩いた「和鉄の道」を思い起こしながら、2006年の足跡をPDF fileに整理しました。

2006年のテーマは振り返ってみるとざっとこんなところでした

- 「日本に鉄がもちこまれてから製鉄が始まるまで 1000年 なぜ こんなに長くかかったのだろうか」
日本には数多くの製鉄伝承がある それらは 単に作り話とは思えない
- 遠い存在だった「弥生の戦」 神戸にも弥生の戦の痕跡がある
日本人の心のルーツを映す戦を知らぬ縄文のくらし そして 「鉄が戦を引き起こしたのか」
- 大和が日本をひとつにまとめる力となった大陸の鉄の支配
邪馬台国と大和 北九州と大和が対比される古代史の幕開けに
大陸の鉄をめぐるの朝鮮半島・日本海沿岸をめぐる鉄の争奪戦の歴史があった

等々 本当にこんなところにも 鉄の歴史の痕跡があるのか と驚くばかりです。

思いだしながら これらの足跡を2006年の口絵に整理しました。

だんだん 更新が重荷になっていますが、以前出かけたところも すっかり様変わりしているところも多く 世の中の中心世代から外れて ぼやきも多くなりました。

本年も 鉄をキーワードに 気の向くまま 足の向くまま 不思議に思ったことなどに目をむけたく思っています

2007.1.1. Mutsu Nakanishi

ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

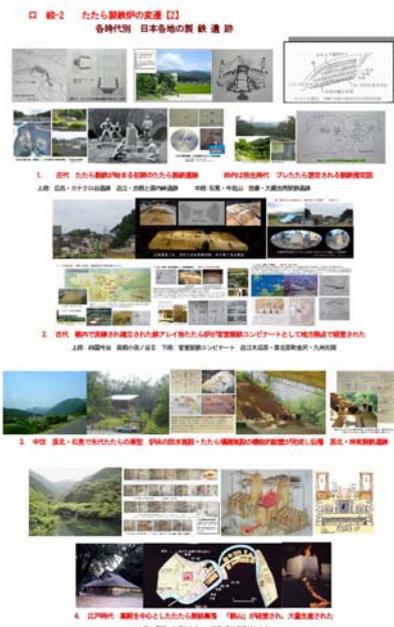
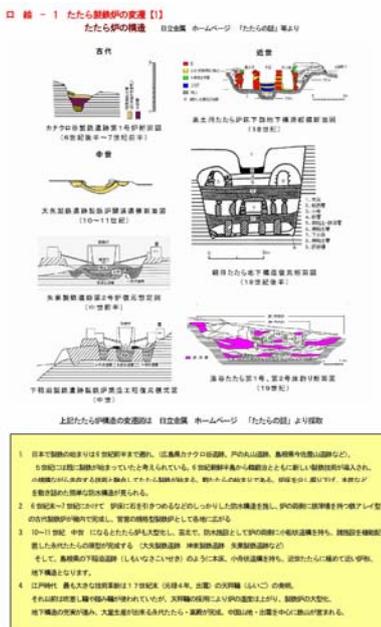
和鉄の道【6】 2006 口絵

口絵-1 たたら炉の変遷【1】 たたら炉の構造

口絵-2 たたら炉の変遷【2】 各時代別 製鉄遺跡

口絵-3 3～5世紀 朝鮮半島から持ち込まれた鉄素材

大陸と大和 七支刀が解き明かす古代製鉄のなぞ





すっかり 春の陽気 このまま春がくるのでしょうか・・・2007.2.1. 庭先の花など



滋賀県守山 早咲き満開の菜の花とその向こうに連なる比良連峰 2007.1.30.

ばたばたしている間に はや2月です。 いかがお過ごしでしょうか・・・
本当に暖かい冬。 これだけ暖かければ拍子抜けです。

この暖かさに いつも寒中に咲く庭の蟬梅の花も随分遅れ、逆に梅や菜の
花の便りが早くも聞かれます。 もっとも 風邪か 花粉症の前触れか
咳がとれず 体調はいいのですが、気分のすっきりしない毎日です。

神戸では1月17日 震災12年 今年も色々な行事が行われました。

「震災の記憶を風化させるな」の言葉とは裏腹にまったく、はっきりしない
商業主義的な行事もみられるようになりました。

神戸では新しい世代を含め、震災を知らない人たちが1/3 近くになったと聞
きます。また、神戸で育った新しい連携が、気持ちの中から薄れつつあるの
も事実。 真っ暗な寒い夜空にぱっとルミナリエの明るい灯がともった時の
感激は今もありありなのですが・・・

時代をつないでゆく風化させてはならない記憶・知恵と風化させてもよいも
のをきっちり意識せねばいけないのかもしれないかもしれません。

いやなことを見聞きする昨今ですが、「もう 琵琶湖の湖岸で 菜種の花
が満開」と聞いて、「菜の花畑の向こうに聳える雪の比良の写真が取れる。」
といてもたってもいられず、古代たたら遺跡の眠る瀬田丘陵を久しぶ

2006年 神戸 ルミナリエ

生かされているすべてが一家族
一人の痛みがみんなの痛み
ひとりひとり自らが 手をかそう



りに訪ねることとあわせて 1月30日琵琶湖に出かけました。
瀬田丘陵のたたらは又にしませんが、暖冬とはいえ 快晴で春の陽気。
琵琶湖大橋のすぐそば 守山市のなぎさ公園では 満開の菜の花の香りが漂い、正面琵琶湖の向こうには 雪を抱く
蓬莱・打見山がどっしりと座る比良の山並みが全部見えました。
琵琶湖の西岸を南北に連なる比良連峰が全山見たのは本当に久しぶりでした。
今年はやっぱり 随分雪が少ないですが・・・・・・。
春の菜の花を見るとぱっと 明るくなります。
変わらずですが、「あっちも行きたい こっちもいきたい」 とデジカメ首にぶら下げて 風来坊
そんな中から 今月のホームページ更新しました。
昨年「弥生の戦」を皮切りに調べだした古代神戸の鉄とのかかわり。
神戸には製鉄遺跡がないと思っていたのですが、神戸の中心市街地三宮に古代の鍛冶工房があり、その前の時代 古
墳時代初期 神戸の海岸に立ち並ぶ3つの古墳 謡曲「生田」に謡われる伝説の古墳は古墳時代の大陸から大和へ続
く「鉄の道」の守りではないか・・・・
そんなことを思いながら、神戸の製鉄遺跡を掲載しました。
何でもみてやろう Country walk またまた増えた 今日この頃
暖かくなる春が待ち遠しいです。

2007.2.1. Mutsu Nakanishi 神戸にて

琵琶湖湖岸 満開の菜の花と比良連峰 2007.1.30. 滋賀県 守山市 なぎさ公園にて



こんなにきれいに立ち並ぶ比良連峰を見るのは本当に久しぶり。例年に比べ随分雪が少ないが、正面のなだらかな峰に雪を抱いているのが、蓬莱山・打見山 カーレータの傷跡も小さくなりました

神戸にも古代製鉄遺跡がありました

また 神戸の海岸にある初期古墳は 大陸から大和へ続く古代「和鉄の道」の番人か ??????

2007年になって 初めてのホームページ更新。 またまた 遅くなってしまいました。

「これも考えておきたい これも調べたい」 と頭がまとまらず、発散ばかりしています。今年は 日本での製鉄の
始まりと 纏向に始まる大和王権と鉄の関係など 何とか もう少しくりやーにならないかと思っています。

また、以前でかけた製鉄遺跡でも瀬田丘陵や福島県行方の製鉄遺跡群などでも 新しい発見が相次いでいます。以前には知らなかったことを加えると新しい視点も出てくるし、再検討せねばと思っています。

朝鮮半島 伽耶・百濟・新羅にも ぜひ行って見たいです。

また、 まったく製鉄遺跡と関係のないと思っていた神戸にも鉄の痕跡が見えてきましたし、やること多しです。さらに 縄文の時代感もますます変わってきましたし、そっちも・・・・・・・・。

まあ 地道に Country Walk の楽しみ続けようと思っています。

当月掲載した新しいページは下記の2件をまとめました。

1. 古代 神戸の「鉄」を訪ねて

神戸市内の「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」

神戸市内出土の三角縁神獣鏡・前方後方墳の足跡が語る「古墳時代の鉄の道」

神戸にはないと思っていた製鉄遺跡 それも古代の製鉄遺跡がありました。

それも 神戸灘の海岸に立ち並び、謡曲「生田」に謡われる伝説の3つの古墳がどうも古墳時代の「和鉄の道」の守り手だったのでは????

と。また、三宮の繁華街のど真ん中から 古代の大きな鍛冶工房が出てきています。

神戸の昔は何もないところだと思っていましたが、どうも 昔から重要な交通の要衝のようです。

2. 8-12世紀 越・柏崎に眠る大製鉄コンビナート 軽井川南製鉄遺跡群 (資料)

また、8世紀 律令体制が整った大和王権が地方経営に乗り出し、その先端地で経営した大規模鉄のコンビナート。今年は もう一度 きっちり 歩いて 整理しようと考え、資料を集めています。

そんな中 日本海側越の国 柏崎で 古代の大製鉄コンビナートが出土したと聞き、資料を送っていただきました。日本海側最大の古代の製鉄遺跡 日本海側の東日本諸国を支える大和王権の大製鉄コンビナート。

まだ、よう 出かけていませんが、興味ある遺跡 資料から概要をまとめ 整理しました。

ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

1. 古代 神戸の「鉄」を訪ねて

神戸市内の「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」

神戸市内出土の三角縁神獣鏡・前方後方墳の足跡が語る「古墳時代の鉄の道」



昨年「弥生の戦」を皮切りに調べだした古代神戸の鉄とのかかわり。

神戸には製鉄遺跡がないと思っていたのですが、神戸の中心市街地三宮に古代の鍛冶工房があり、その前の時代 古墳時代初期 神戸の海岸に立ち並び、謡曲「生田」に謡われる伝説のつの古墳がどうも古代の鉄と関

係するのではないかと・・・・・・

古墳時代の大和から大和へ続く「鉄の道」の守り。そして その主は大和王権の中枢にいた物部氏の痕跡ではないか????

瀬戸内海をたどってきた人たちが、この神戸で初めて畿内・大和の勢力圏に入る「和鉄の道」

今 誰も見向きもしないが、

古墳時代 ここを通った多くの渡来人や鉄 それが日本誕生に大きな役割を演じたのではないかと一人イメージを広げています。

そんなことを思いながら、神戸の製鉄遺跡を掲載しました。

2. 8- 12世紀 越・柏崎に眠る大製鉄コンビナート 軽井川南製鉄遺跡群 (資料)



8世紀 律令体制が整った大和王権が地方経営に乗り出し、その先端地で経営した大規模鉄のコンビナート 福島県原町 行方の製鉄遺跡群・そして 福岡 元岡遺跡群にも今年 もう一度 きっちり 歩いて 整理しようと考え、資料を集めています。

先日再度訪れた瀬田丘陵の製鉄遺跡も 随分 イメージが変わっていました。

そんな中 日本海側越の国 柏崎で 古代の大製鉄コンビナートが出土したと聞き、資料を送っていただきました。色々教えていただいて やっと イメージができた越の鉄 越後には砂鉄があり、三彦山のひとつ弥彦山もある。

九頭竜川流域の鉄ばかりに頭が行っていましたが、越後 柏崎からの大製鉄コンビナート発見のニュースに頭がーンです。日本海側最大の古代の製鉄遺跡 日本海側の東日本諸国を支える大和王権の大製鉄コンビナート。

まだ、よう 出かけていませんが、興味ある遺跡 資料から概要を紹介かねて、雑な整理ですが、PDF 資料でアウトラインを紹介します。また、瀬田丘陵 ぜひ知りたかった源内峠のたたら炉や新たに発掘された野路小野山遺跡?については次月にまとめます。

■ Country walk 風来坊

あそこも行きたい ここも行きたい なのですが、今回もまとまった記事なし。上記しました早春の菜畑とその向こうに見える比良連峰の姿をご覧ください。

菜の花の香りがいっぱい漂う中 ゆったりと雪を戴く蓬莱山・打見山 そして 北には堂満岳に比良の主峰武奈ヶ岳 こんなにきれいにみえるとは・・・ 学生時代のホームグラウンドです。

これだけきれいに見えれば 東の伊吹山も琵琶湖越しに見えるだろうと思ったのですが、残念ながら目を見たら 雪の姿がうっすら琵琶湖越しに浮かんでいるのが見えたが、写真にはダメでした。



琵琶湖湖岸 満開の菜の花と比良連峰 2007. 1. 30.

滋賀県 守山市 なぎさ公園にて

■ 思いつくまま from Kobe

1. 2007年1月 きままなひとりごと 2007.1.25.
2. 「発掘された日本列島2006」展 大阪 2007.1.17.

3.

2007年3月 「IRON ROAD 和鉄の道」



須磨山 南西斜面に広がる梅林より 明石海峡遠望 2007.2.27.



須磨山 須磨山より一ノ谷・須磨方面を望む 2007.2.27.



須磨山 南西斜面に広がるほば満開の梅林 2007.2.27.

神戸の春2007 須磨山上 満開の梅と菜の花 2007.2.28



明石海峡に群がるイカナゴ漁の船団群とすぐに明石魚の棚で売られるイカナゴ 2007.3.1



冬がなかったかのような春3月、神戸ではイカナゴ漁が解禁となり、待ちかねた春の「釘煮」の季節になりました。

明石海峡にはいくつものイカナゴ漁船団が出て、港ではイカナゴの水揚げを待つ人たちでいっぱい。

明石の魚の棚もイカナゴを買い求める行列がながぶ、いつもの光景がはじまっています。

同じ時期 例年 須磨山上の梅はまだ蕾が固いのですが、今年はもう満開、

あたりに梅の香りが漂い、紅梅・白梅の向こうに春の海がキラキラと光っています

神戸はもう 春 真っ只中になりました

2007.3.5. by Mutsu Nakanishi

昨年から続けている古代のたたら製鉄 1月末に訪れた近江瀬田丘陵の源内峠製鉄遺跡・野路小野山製鉄遺跡をまとめました。

1000年にわたる模索の中から 6世紀小さな製鉄炉で始まった国内での鉄生産 1世紀をかけて 近江の国で大型量産技術に磨かれ、8世紀 地方の重要拠点で古代の製鉄コンビナートが形成されてゆく。渡来人のもたらした技術をいっしょになって、さらに高度化して 固有技術にしていった時代である。



西六甲縦走路 須磨周辺の鳥瞰写真

この近江が担ったほんの40cm四方の炉床の小型炉が大量生産可能な長さ2m幅60cmを超える大型製鉄炉に変身する。まさにわたしたち団塊の世代が経験したのと同じ古代の高度成長の時代。数々の歪を生じながらも鉄の技術革新が日本の国づくりを支えてゆく。

この時代どんな技術がどのように取り込まれ、固有技術になっていったのか……

今の時代と同じくものづくりの技術はよくわかっていない。近江へ行けば「***風」と呼ばれる自然の風を利用したたたら製鉄からの古代大型炉への変遷が見えるのでは?と。



google earth より 瀬田丘陵 琵琶湖の鳥瞰写真

インターネット google earth を使えば 走っている車も捕らえられる衛星地形画像が見られ、それを実際その上空を飛んでいるような鳥瞰写真にすぐ変えられる。すごい時代である。蛇足ながら この google earth を使って 各地の Country walk と組み合わせて楽しんでいるが、かつて 汽車の時刻表や登山マップの工程表を繰り返し見ていた楽しみと同じで、時間を忘れてしまう。瀬田丘陵で古代の大型炉を育んだ源内峠も この google Map でみると まさに琵琶湖を吹き渡る比良おろし・比良八荒が吹き抜ける谷筋。ここで自然風を使いながら、人口送風への切り替えの試みが数々試されたに違いない。(当時はまだ鞆がなく、皮フイコ^oをつかっていたと思われる)

そんな楽しみも加わって 楽しい近江瀬田丘陵の Country Walk でした。

IT技術の恩典にも浴しながらも、われもわれもの IT 万能とグローバリゼーション の薄っぺらなデジタル論議にはいささか食傷気味。ものづくりの本質もほんとうは スポットライトをあびることのない技術の積み重ね・複合技術で、一著上がりというわけにはいかない。ぽつと政治家やなんやかやが現場を通っただけではわからないぎじゅつとと思っている。なんせ たたら製鉄ではこの技術の探査・習得に1000年近くもかかっている。

先日 大阪であった縄文塾の夜の懇親会で 縄文時代がどんどん 小学校の教科書から消えているという。

要は 日本を教えるのは 稲作文化からの弥生時代からでいいということのようです。

今 一般の縄文観が大きく変わり、しかも 日本の文化の深さに縄文の文化が根ざしており、まして今、自然・地球との共生の知恵が詰まる縄文である。

社会も会社も医療も そして教育も 大きく音を立て変わろうとしています。 本当にこれでよいのか…… 厳しい時代です。 そんなことなど ぶらぶら 考えながら 風来坊の Country Walk を楽しんでいます。

3月のホームページの更新です

恒例みたいなものですが、 3月 神戸の風物詩 イカナゴ漁と須磨山上の梅

今年はイカナゴ漁の基地 明石林崎漁港で イカナゴ漁や船を待ち構えるイカナゴ仲買の人たちの風景など写真を取ってきました。

なんと 物好きな……でしょうが、同好の士は沢山いて、広島から朝一番の新幹線で 写真取りに来たという人も……。

また、須磨山上旗振山の梅林 ことしはもう満開で 眼下に霞む明石海峡をバックにすばらしい景色がみられました。

一の谷を見下ろす谷の上部 今年も菜の花が満開・キンカンの実がいっぱいで、須磨の浜と美しいコントラストでした。

長年 須磨海岸の海に伸びていた山砂採取のコンベヤーが撤去され、海岸の風景から消えていました。

古代日本の展開に大きな影響を与えた地方拠点での大製鉄コンビナートの成立に大きな影響を与えた瀬田丘陵の製鉄遺跡を訪ねました。 5年前にも資料を集め、出かけたことがあるのですが、新しい発見もあり、古代の製鉄炉はどんなものだったのか……なぜ 瀬田丘陵だったのか??? 等々新たな興味です。

団塊の世代の私たちと同じように よくも悪くも 高度成長を果たしてゆく古代のこの時代。 大和や西・瀬戸内からの交通路ばかりでなく 北の琵琶湖からの交通路を持ち 半島の各地からの渡来人が数多く住む近江。

製鉄技術の展開から なにか 今まで知らなかったことが見えてくるだろうと。

2月16日 三内丸山遺跡をはじめ、青森の縄文を世界遺産への登録を目指す運動の一環で開かれた「あおり 縄文 まほろば」展にあわせて開催された大阪で三内丸山発信の会の縄文塾に参加。長き縄文の時代を網羅する青森の縄文の名品を見ることができ、本当に関西に縄文の常設展示館がほしいと。

教科書から縄文時代が消えようとしています。なんで……。物だけでなく その生活を含め、縄文のすばらしさにふれてほしいものです。

そんなことを またまた 雑ですが、時間に追われながら 3月の更新をしました。

春になって、野山はそろそろ カタクリの花 そして 桜も近し
 元気に 気の向くまま Country Walk です
 この頃 孫のこと 書かないなあ といわれますが、元気にテレホン デイトです。
 また 色々メールください。

2007.3.5. Mutsu Nakanishi

ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

1. 瀬田丘陵の源内峠製鉄遺跡・野路小野山遺跡を訪ねて

大型量産製鉄炉を確立し、古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術

古代日本の展開に大きな影響を与えた地方拠点での大製鉄コンビナート。 の成立に大きな影響を与えた瀬田丘陵の製鉄遺跡を訪ねました。

5年前にも資料を集め、出かけたことがあるのですが、新しい発見もあり、古代の製鉄炉はどなものだったのか……。なぜ 瀬田丘陵???

団塊の世代の私たちと同じように よくも悪くも高度成長を果たしてゆくこの時代 大和や西・瀬戸内からの交通路ばかりでなく 北の琵琶湖からの交通路を持ち 半島の各地からの渡来人が数多く住む近江。

製鉄技術の展開から なにか 今まで知らなかったことが見えてくるだろうと



中国山地で始まった たたら製鉄 が 7世紀 畿内へ伝播すると展開 古代たたら製鉄 量産炉への変遷を示す 近江 瀬田丘陵 最古の箱型製鉄炉 源内峠製鉄遺跡 2007. 1. 30.



大津市びわこ文化ゾーン
 奥が源内峠製鉄遺跡

中国山地で6世紀 箱型炉による製鉄ガスタート	近江など畿内では量産・大型炉がはくまれる	量産モデル炉による官営製鉄コンビナートへ
<p>石見 今俊山 製鉄遺跡 6世紀後半 45cm×45cm 自然通風・皮吹き</p>	<p>古備 大蔵池南製鉄遺跡 6世紀後半 50~60cm×100~120cm 自然通風・皮吹き</p>	<p>源内峠製鉄遺跡の箱型炉 7世紀前半 0.3~0.6m×2m~2.5m 自然通風・皮吹き</p>
<p>近江 野路小野山製鉄遺跡 8世紀 約1.2m×約2m 人口送風 踏鞴</p>	<p>陸奥 金沢製鉄遺跡 8世紀 60cm×2m 人口送風 足踏鞴</p>	
<p>石見 今俊山 製鉄遺跡</p>	<p>古備 大蔵池南製鉄遺跡</p>	<p>近江 野路小野山製鉄遺跡</p>

2. 縄文の接合 「あおもり縄文まほろば展」を見る

アスファルトで接合された合掌土偶や縄文人が描かれた石冠ほか、青森の縄文の名品を見る

大阪歴史博物館「あおもり縄文まほろば展」に青森縄文の名品がそろいました。

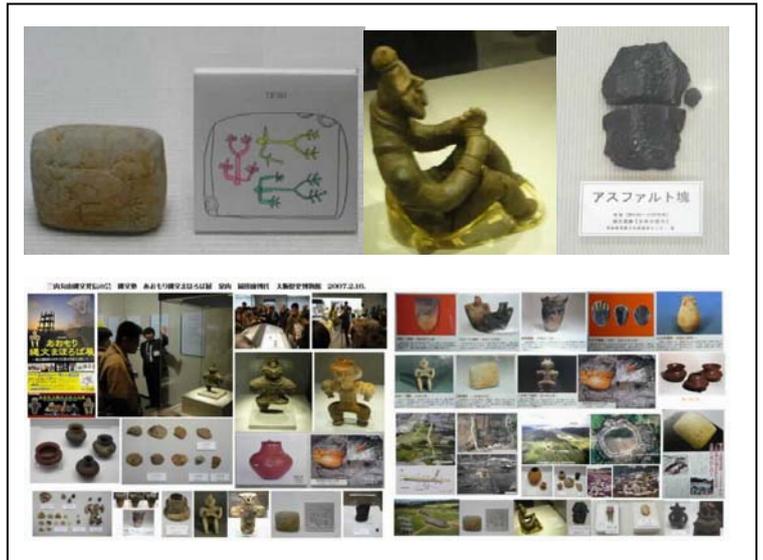
土偶・縄文の土器・ヒスイも、そして縄文のポシェットに、是川遺跡の漆も・・・写真やレプリカでしかしらぬ名品が目の前に並んでいました。

接合屋としての興味は縄文の接合。すばらしい合掌土偶の腕・膝が縄文人によりアスファルト接着され出てきています。

派手さはありませんが、縄文の時代から確かな接合技術があり、しっかりとものづくりの技術が根ざしていました。

また、現代のアートで通用するような線刻画、縄文人3人が小さな石に描かれていました。

関西ではなかなか見れない縄文の遺物。なぜかその柔らかさに魅せられていました。ふっと、気の休まる縄文の名品ばかりです。



■ Country Walk 風来坊

1. 神戸の春 2007 写真アルバム

須磨山上 満開の梅 & 明石林崎漁港のいかなご漁

恒例みたいなものですが、3月 神戸の風物詩 イカナゴ漁と須磨山上の梅

今年はイカナゴ漁の基地 明石林崎漁港で イカナゴ漁や船を待ち構えるイカナゴ仲買の人たちの風景など写真を取ってきました。

なんと、物好きな・・・でしょうが、同好の士は沢山いて、広島から朝一番の新幹線で 写真取りに来たという人も・・・。

須磨山上旗振山の梅林、ことしはもう満開で、眼下に霞む明石海峡をバックにすばらしい景色がみられました。一の谷を見下ろす谷の上部、今年も菜の花が満開・キンカンの実がいっぱいで、須磨の浜と美しいコントラストでした。

長年、須磨海岸の海に伸びていた山砂採取のコンベヤーが撤去され、海岸の風景から消えていました。



須磨山上に咲く満開の梅と菜の花 もう神戸は春到来です 2007.2.28.



神戸の春を告げる大阪湾・播磨灘のイカナゴ漁 漁場の明石海峡周辺には船団がいっぱい 2007.3.1.

■ 思いつくまま from Kobe

1. From Kobe 3月 「縄文時代が教科書から消えつつある」にびっくり

「日本人の心を映す縄文」 「世界三大文明にも匹敵する木・森の文化縄文」といわれる縄文時代の記述が教科書から消えつつあると聞きました。

ほんと なんでもやねん・・・・・・・・です。

縄文の遺跡に立てば・・・ 縄文の名品を見れば その感じがわかるのですが・・・・・・・・



4.

2007年 4月 「IRON ROAD 和鉄の道」

4月 あっという間に桜が咲いて いろんなところの桜をみせていただきました



山梨県北杜市武川 実相寺境内 樹齢2000年 「神代桜」 2007. 4. 1.



京都・奈良の境を流れ淀川に合流する大河 木津川 歴史の笠置にかかる沈下橋と桜 2007. 4. 9.



山口県美祢 厚狭川の桜 美祢のYさんから 懐かしい写真を送っていただきました 2007. 4. 5.

4月 ぐずぐずしている間に 桜満開の季節も過ぎようとしています。

4月 今年はすばらしい「桜」を色々見ることができました

特に たくましく2000年の生き様をそのままみせる山梨の「神代桜」の姿には感激。

久しぶりに 東京にいる娘一家と八ヶ岳山麓の清里でドッキング 清泉寮のコテージに泊まって 新2年生と2歳になったばかりの孫たちとおじいちゃん・おばあちゃんを楽しんできました。だれにも気兼ねせず 走り回れるコテージ 春の清里の景色とともにすっかり 気に入っています。また 相変わらずですが、Country Walkにも精出しています

すばらしい桜も見たし、4月はイースタ そして 青春18キップで歩いたCountry Walk 等々

早く更新しようと思いつつ またまた、4月も終わりになってきました

そんな桜の便りとともに 新しいホームページ届けます。

2007.4.15. Mutsu Nakanishi

■ 山梨県北杜市の2000年生きてきた「神代桜」の姿に感激

4月 あっという間に桜が咲き出して、満開の桜をあちこちで、見ることができました。

特に春休みの孫たちと八ヶ岳山麓の清里に行ったのですが、その折に南アルプス鳳凰三山の山麓北杜市武川で見た樹齢2000年の「神代桜」には感激でした。まだ、雪をいただく鳳凰三山・甲斐駒ヶ岳をバックにすごい巨樹の柱から新しい桜満開の幹を四方に広げていました。

以前はもっと背の高い桜だったようですが、少し小さくなったと聞きました。遠くから見たときには数多くのつかえ棒に支えられ、京都円山公園の枝垂れ桜が頭をよぎり、「何かいたいたいなあ・・・」と思ったのですが、近づくにつれ、そんな気は吹っ飛んでしまいました。

どっしりと大地に根を下ろし、何度も何度も本体の周りから幹を伸ばし、胴回り15mを超える樹の太さとなって、本体をがっしり守り支え、ごつごつとした荒々しい樹の表面がその2000年の歴史をしっかりと伝え、そして 今花を咲かしている新しい枝をがっしり支え、見上げている。本当にたくましい。大地から空へ伸びようと力強い生命力をむんむんと発散。オーラを感じるとはこのことか?。

すごいエネルギーをもらいました。

福島県三春の「滝桜」を見たときに感じた爽快感。

久しぶりでした。

2000年か・・・ わたしも まだ これからだと。また、7年過ごした山口県美祢の街中を流れる厚狭川土手の桜の写真を美祢のYさんが会社の便りと共に送ってくれました。

昔 美祢で仕事したときのことや、夜桜見物で歩いたことなどほんとうに懐かしい。

鳥が桜の花芽をすっかり食べて、花が咲かないといったことも聞きましたが、満開の桜健在にっこりです。おりしも 運営の大半を民間企業に委託する全国初の刑務所「美祢社会復帰促進センター」が1日、開所したとTVが伝え、美祢の街に新しい顔が加わり、さらに活気ができれば・・・と。



鈴鹿の山並みから流れ出て 西にまっすぐ奈良と山城の境を流れ下り、数々の歴史に登場し、淀で淀川に合流する大河「木津川」。この川を調べていて 山間の中流 笠置に 大水が出たときに川の中に潜没する「沈下橋」が2つもかかっていると知って、息子にもらった青春18きっぷを使って出かけました。

あまり知らなかったのですが、笠置はすばらしい桜の名所。狭い溪谷に沿って 関西線の鉄路が伸び、その鉄路に沿って溪谷を見ながら歩ける桜満開のハイキングコース。そんな溪谷の中 川を挟んで 向かい合う小さな集落をつなぐ一筋の沈下橋。ずっと四万十川の沈下橋にあこがれて、イメージふくらませていたのですが、 ひとつこひとりいない山里の広い川幅の兩岸を欄干のない一筋の長い橋がつなぎ、あぶなっかしそうに一台の車が渡ってゆく。桜のハイキングコースとあいまって 映画のロケをみているような光景でした。

関西お勧めのハイキングコース。僕は良く知らなかったのですが、車窓から眺める景色もすばらしく、この笠置から伊賀上野・関にゆく関西線のコースは関西屈指の青春18きっぷの人気コースとか・・・

■ 4月8日はイースタ・復活日のメッセージより



4月8日 神戸須磨区 妙法寺川公園で 2007.4.8.

4月8日はイースター・復活日。桜満開の中でのイースター。

わたしの住む須磨 妙法寺川に沿って植えられた桜並木もすばらしく、8日の日曜日には 桜の下で酒宴をはって 桜を楽しむ人でいっぱいでした。

よみがえられたキリストの平和 「キリストの復活」に言葉はいらない

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」

「自らをふりかえり、家族・周りの人たち・地球の人たちに思いをさせ、祈りましょう」

昨年 11月参加した広島国際平和会議の平和メッセージとして発信された言葉に強く引かれる。

「自らが、世界の一人ひとりに 手を差し伸べよう

自らが起こした小さなひとつの行動の輪が、つぎつぎと大きくなってゆく」

最近の日本で一番欠けている言葉かもしれないとつくづく思います。

年老いてくると 行動半径もますます狭くなって、近視眼的にしか見えず、自分たち せいぜい自分の仲間ぐらいしか 見えない。そんな自分をふっと感じて さびしくなるが、老大国 日本もそんな風潮か・・・

自分たちの持つ「1」をゆずることが、広い世界では「100」にも「1000」にもなる。近視眼的な自由・権利・競争から、この地球で共に生きる倫理観・理念が行動になるようところがけたいものだと思っている。

■ 桜満開の中で逝った友 仲間の訃報を聞くのは本当につらい

信州から帰った4月1日夜 大学 同じ研究室で学んだ友 F君の訃報を聞く

長く高知で数多くの研究者・技術者を育て、つい先日 退官して京都に帰ってきたと聞いたばかり。急性の心臓マヒだったと。 夜遅くまで、顕微鏡を眺め、研究の面白さ 不思議さ を熱っぽく語っていた友。

これほど 研究が好きなやつは居らんと・・・

周りに気を使いながらも 誰に影響されることなく 自分に正直で 本当にやさしい友だった。

卒業してから 会って話す機会は数度でしたが、いつも頭の隅にあって、大事な仲間だったとつくづく思う。

【思いつくまま from Kobe 4月】

1. 「兵庫」の鎖 - 「兵庫鎖」を調べていて-

「兵庫鎖」・「兵庫」のルーツとゴム輪など・・・

知らないことが次々と



「兵庫鎖」の話を教えていただいて 昔の記憶をたどりながら 何やかや引っ張り出したり、インターネット調べたり、調べてみると面白い話がぞくぞく。

やっぱり、ものづくりの技術は奥が深いというか 技術伝承がそのものだけにとどまらず、広がってゆくことと感しました。最近 あまりにも 薄っぺらで うのみにしてしまうことが多い時代。

落ち着いて 考えてみたり、そのフィールドに 直接 出かけてみるのも面白い。

2007.3.20. 神戸にて Mutsu Nakanishi



4月のホームページの更新です

あれもこれもと 色々調べている間に四月も半ば 今月もまた 少し消化不良気味ですが、桜のすばらしい景色を見ることができましたので、それらを中心にまとめました。

昨年から 気になっていた古代大和への鉄の流入ルート。 一般的には 大和川を遡るのが近いのですが、淀川・木津川も有力。 ましてや 日本海側を考えると最有力。また 紀ノ川から吉野川のを遡る道も・・・。

そんなことを考えていたら、 いずれもこの大和の入り口には朝鮮半島からの鍛冶技術を持った渡来人が数多くすみついて、鍛冶攻防が展開されている。 これは大和への鉄の道・・・と。また、日本誕生にかかわった大和三輪山山麓の纏向への鉄の道はどこか・・・

これがはっきりすれば 卑弥呼のなぞも解けると・・・

今年の春は 青春18キップを使って せっせと大和周辺に通いました。

順次 大和への鉄の道淀川 大和川 紀ノ川について 検討してゆきたいと思っていますが、まだ 消化不良ですが、その一部を今月から紹介します。

そんなことで またまた、時間に追われながら 遅ればせの4月の更新をしました。

あっという間に 若葉におう季節

柔らかな若葉がさまざまな表情に野山を変え Country walkには 最も良い季節

元気にすごくのが一番と また 色々メールください。

2007.4.16. Mutsu Nakanishi

ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

1. 古代大和の鉄の道を訪ねて【1】

淀川・木津川から大和へ 大和の外港 木津「泉津」を訪ねて



3世紀後半 卑弥呼の時代 四方を山に囲まれた肥沃の地 大和で日本誕生のドラマがはじまった
そのKeyは朝鮮半島の「鉄」 朝鮮半島・大陸から西日本を通して大和へ 古代の「鉄の道」があった。
大和への入り口は3つ。そんな古代 大和の鉄の道の一つ 淀川・木津川から平城山越のルート 大和の
外港南山城 木津の「泉津」を訪ねました。卑弥呼の道だったかもしれないこの淀川・木津ルート 久しぶ
りに奈良坂 般若寺周辺の旧京街道へも行きました。

2. 関西の縄文-1

京都 長岡京の北西端に出土した縄文集落 上里遺跡を訪ねて



縄文遺跡というと東日本 関西には縄文遺跡がないのか……

「関西の縄文に火をともしよう」そんな「縄文の会」の例会に毎月出かけています。

京都 長岡京の北西端で縄文集落遺跡の発掘調査が行われていると教えてもらって 出かけました。

北摂連山のポンポン山と小塩山を背にした山裾の高台の田園地帯 正面はるか向うに淀川がながり、男山・生駒の山並みが見張らせる素晴らしい場所に縄文の集落がありました。 縄文人は見晴らしのいい山裾の丘陵地帯 素晴らしい場所に集落を作っている。

この上里遺跡ものどかな田園が広がる素晴らしい場所でした

3. PDF 資料 高槻 三島古墳群 今城塚古墳・鬮鷄山古墳を訪ねて



淀川が流れ下る高槻・茨木市北摂連山の山裾に継体天皇の御陵はじめ、数多くの前方後円墳がある。この地で

は卑弥呼の時代から 前方後円墳が作られ、大和王権初期から密接な関係を持った重要地点である。継体天皇の墓ではないかと見られていた「今城塚古墳」で天皇陵にしか見られない三段の石組みの一部の一部が発見されたとの発表があり、ますます継体天皇陵の可能性が高くなった。 また このすぐ南西にまだ未盗掘でファイバースコープ検査で三角縁神獣鏡や鉄剣など数々の副葬品が確認されるなど脚光を浴びている古墳時代前期の古墳 戦鶏山古墳がある。

継体天皇は北近江・越の製鉄集団と関係の深い天皇であり、淀川を見晴らす高台にあり 川向こうにも 枚方・河内磐船・森にも初期古墳群があり、物部氏と関係する製鉄集団の地。 当時 淀川は大陸・朝鮮半島と大和を結ぶ鉄の道の大動脈。 この地はそれを守る大和の重要拠点。

新聞発表にぜひとも資料がほしいと 今城塚古墳・闘鶏山古墳を見学に出かけました。

まだ きっちり検討決定ませんが 遺跡の概略を PDF file 資料にしました。

■ Country Walk 風来坊

1. PDF file 写真アルバム 2007 春 桜のたより

pdf 写真アルバム 2007 年春 桜の便り



- 山梨県北杜市の樹齢2000年 神代桜と清里から見る春の南アルプス・ハケ岳
- 山口県美祢 市街を流れる厚狭川の桜 美祢のYさんからメールで送っていただきました
- 木津川上流 笠置の桜と沈下橋

4月 あっという間に桜が咲いて いろんなところの桜をみせていただき、ホームページのトップにも掲載 そんな桜の便り ほかに思ひもかけず 気に入った写真もとれました。

きっちり整理できませんでしたので それらの写真をPDF fileにあつめて pdf file 写真アルバムにしました。

■ 思いつくまま from Kobe

1. From Kobe 4月 「兵庫」の鎖 - 「兵庫鎖」を調べていて-

「兵庫鎖」・「兵庫」のルーツとゴム輪など・・・知らないことが次々と

「兵庫鎖」の話を教えていただいて 昔の記憶をたどりながら 何やかや引っ張り出したり、インターネット調べたり、調べてみると面白い話がぞくぞく。やっぱり、ものづくりの技術は奥が深いというか 技術伝承がそのものだけにとどまらず、広がってゆくこと感じました。

最近 あまりにも 薄っぺらで うのみにしてしまうことが多い時代。

落ち着いて 考えてみたり、そのフィールドに 直接 出かけてみるのも面白い。

2007年5月1日 新緑の里山の景色を伝えます



新緑の淡い緑につつまれた野山にいっせいに花が咲いています

2007年 新緑のアルバム

新緑が目まぶしい季節 いつまでも 桜の花では・・・と top page を5月の花便りに更新しました
今 野山は淡い新緑の緑につつまれ、その山裾や川の土手には 春の花が咲き誇っています。

「古代大和への鉄の道」を訪ねて せっせと通った大和川・亀の瀬 龍田山

日本有数の地滑り地帯ですが、大規模な対策工事の傍ら、素晴らしい春の里山風景が広がっていました。

また、今年も滋賀県日野 鎌掛の石楠花谷 清楚な花が谷の崖一面に広がり、都への帰りに通った比叡・八瀬の新緑も見とれるほどの美しさ。

桜の華やかさに対して、なんとなく 素朴でふんわりした新緑の野山。 独り占めにするのは惜しいので、近畿の春の里山の景色をお伝えします。

5月の連休いかが おすごしでしょうか・・・・・・・・

素晴らしい季節 お近くの野山の Country Walk をお楽しみ下さい。 なお、古代大和への鉄の道 亀が瀬・龍田越そして二上山 オモシロイ話を沢山聞きましたので、これから ゆっくりまとめます。

2007.5.1. Mutsu Nakanishi

2007年 春 新緑のアルバム by Mutsu Nakanishi



八瀬からみた比叡山・蛇が池の峰 2007.4.28.& 龍田越 峠 地滑り防止地区と雁多尾畑 2007.4.20.& 29.



新緑の緑を映す二上山山麓上の池

2007. 4. 28

花の少ない裏の年でも鎌掛谷の石楠花群落には清楚な花が咲いていました

2007. 4. 29.



金剛・葛城山地と生駒山地の切れ目から流れ下る大和川 急流亀の瀬 2007.4.20.

ここより上流大和側は古代「龍田川」と呼ばれ 数々の歌が読まれ、何度となく 地滑りを起こした河内から大和への難所。この上の龍田山 御座峰には風神 龍田神降臨の伝承があり、古代たたら先進地 今も地滑り地帯には崩れ落ちた鉄滓塊がゴロゴロ???



二上山 雌岳頂上より見た夕日に輝く大阪湾とその麓 竹之内街道の夕暮れ 2007.4.29.

大津皇子が眠る二上山 大和川・亀の瀬を挟んで龍田山と対峙し、河内から大和への山越の険しい道が通る 縄文人の道具の原石サヌカイトはこの北麓田尻峠周辺で産し、石器時代から この「二上山サヌカイト」を求めての道があった。

現代はここを近鉄南大阪線と国道 165 号線が越え、山の南側を竹之内街道 南阪奈道路が越えてゆく

2007. 5. 1. Mutsu Nakanishi

6.

2007年 6月 「IRON ROAD 和鉄の道」 2007. 6. 1.



野山の緑に 水の入った田圃が映えて 光り輝いています
ほんのひと時の里山の美しさですが、田植えが始まると
まもなく 入梅。

今年は 越後平野のそんな風景を見ることができました。
緑がまぶしく、風来坊するには本当にいい時期。 もう
きつい山はよう歩かないし、緑に誘われて 元気に里山歩
きを楽しんでいます。 皆さんは いかがでしょうか・・・
だんだん 足が思うように動かなくなり、物忘れはひどい
し、電車で 忘れ物はするし・・・・・・

「今 いかないよ。 今見ておかないと・・・・」と
先を考える年代になった証拠かもしれません。
だんだん 世間から 遠のいていますが、そんな春の
Country Walk をもとに 6月のホームページを更新しました。

2007. 6. 1. Mutsu Nakanishi



2007.5.16. 田圃に水が張られた越後平野 弥彦
山より海の中に 点々と島が浮いているような景
色が広がっていました

■ 萩焼の陶芸家 田中講平さん

日本工芸会山口支部設立 50 周年「第 30 回 記念伝統工芸新作展」への出展作品

「第 30 回記念大賞 日本工芸会山口支部長賞」を受賞

「日本工芸会山口設立 50 周年第 30 回 記念伝統工芸新作展」山口県立美術館で 6 月 1 日から 10 日まで

新潟へ風来坊して 帰ってきたら 山口の萩焼 陶芸の田中さんから 「日本工芸会山口支部設立 50 周年第 30 回記念伝統工芸新作展」の「第 30 回記念特別賞」を受賞したとの連絡。 日本工芸会山口支部は 萩焼の名だたる陶芸家の集団である。これはすごい。本当におめでとうございます。

家内が陶芸教室でお世話になって以来 その素朴でやさしい人柄に ご夫妻と親しくさせてもらっている。

そのダイナミックな質感の中に細やかな風合い 萩の作品の中にこめられた「大胆さと優雅さ」にいつも勝手な素人談義を吹っかけさせてもらっています。

さっそく お祝いにかかけつけねば・・・と。 山口へ出かけてきます。

6 月 1 日(金曜日)から 6 月 10 日(日曜日)まで 山口県立美術館でこの展覧会が開催されています。

萩の持つおもしろさ 是非 機会あれば お出かけ下さい。

前回の更新から 1.5 月 庭の草花もいっせいに鮮やかな花を咲かせ、野山は新緑に包まれ、本当に家にいたらもったいない季節。 新緑の緑に誘われて あっちへいたり、こっちへ行ったり。 久しぶりに里山を沢山歩きました。 春の里山がこんなにきれいだったとは、再発見でした。



滋賀県鎌掛 石楠花谷 神戸北野旧水源地のつつじ 葛城山満開の山つつじ 新潟県柏崎 砂鉄の浜

「よう 歩き回るなあ」といわれるのですが、「今 行かないと 見られなくなる。 今や・・・・」と半ば脅迫観念的な屁理屈を自分にこねながら。今は「たたら」・縄文を キーワードに Country Walk を楽しんでいます。何と言っても 平日動けること 思い立ったらすぐ出かけられる特権 最大限生かしています。「たたら」や「縄文」をいっていると 野山や谷間そして山里のフリーな walk を楽しみながらの民俗学的興味も満喫できるのが、気に入ってる。

「日本に金属が伝わるとすぐに それぞれ 精錬・生産がはじまるのに なぜ 鉄だけが 1000 年もかかるのか???'」長年 不思議に思いながら、やっと 自分なりの納得に到達できて、今は「鉄と日本誕生の関わり」 「本当に鉄が戦を持ち込んだのか」など勝手なお題目を並べて、楽しんでいます。

また、「縄文のストーンサークルに魅せられて 約10年」 何と言っても関西に三内丸山遺跡のような大遺跡がないのが悔しいですが、「関西の縄文」を意識して歩いてみよう と思っています。

■ 河内と大和を隔てる壁 生駒山地と金剛・葛城山地の切れ目を大和から河内平野に流れ出す大和川



大和川 亀の瀬 三郷町大和川より龍田山 龍田山の頂上部 雁多尾畑から ぶどう園越しに大和平野の遠望
河内と大和を隔てる生駒山地と金剛・葛城山地の切れ目を大和川が急流となって流れ下る。

電車の車窓に二上山の印象的な二つこぶがみえるとまもなく 山が迫り、急斜面に河内ぶどうの畑が広がる狭い溪谷とその中央を流れる大和川。 何度も電車で通るたびによく見た景色でしたが、出かけていって 足を踏み入れてビックリ。さっと通り過ぎるだけでは語れない里山の春の風景とともに古代 「龍田の関」が置かれた交通の要衝・難所としての歴史が今も続いています。

この難所を作り出した大地滑り地帯が古代 紅葉の竜田川と歌われた大和川「亀の瀬」溪谷の景観とともに「雁多尾畑 カリンドバタ」心地よい響きの古代製鉄集団の集落がこの上の尾根に広がり、その尾根筋からは 東に 大和三山を中心とした大和平野 南に 二上・葛城・金剛山が重なり、西にははるか大阪湾までえんぼうできる河内平野が見渡せました。また、対岸の二上山山麓は縄文の「サヌカイト鉱山」そして 古墳の石棺の材料となる凝灰岩・金剛砂の産地。龍田山・雁多尾畑から見るとどっしりと葛城山・金剛山が重なってみえ、この大和川・亀の瀬を挟んで 葛城・金剛とこちら側の龍田山が城門となって自然の城壁が続いている。久しぶりに 葛城山にも登りたい。丁度 5月も下旬 山ツツジ満開の群落が山の南斜面全体を真っ赤に彩る葛城山にも行ってきました。結局 4回もこの春通いました。

■ キトラ古墳の「玄武」を見てきました また、大和ですが

5.23. 明日香 キトラ古墳のはがされた北の石壁に描かれた「玄武」を見てきました。

3時間待ちには優にかかると古代史の仲間から聞いて、朝 葛城山へツツジを見に登って 夕方 明日香へ。1時間ほどで見ることができました。修復にはいると「10年は見られない」と聞くと「やっぱり 見ておきたい」と。また シリコンウエハーや液晶基板の精密切断に使われる「ダイヤモンド ソウ」で玄武が乗っている漆喰部が精密に切り離されると聞くとこれにも興味。本当に狭い石室の中で うまいこと切り離されて良かった。

公開された玄武の姿 蛇のほうの頭部分がちょっと見えにくかったですが、ほかは非常にきれいに見えていました。

この玄武のルーツはどこなのでしょう・・・

そして この前にある5世紀の装飾古墳との関係は・・・

朝日新聞は古代の百濟説を掲載していましたが・・・ 鉄の高句麗説も無視できないし・・・

はやく、修復が終り、石室に組み立ててほしいなあ・・・と。それから これら 玄武・白虎など四神の下に描かれていた十二神将の壁画はどうなっているのか・・・心配しています

■ 新潟 古代「越」の大製鉄コンビナート 「柏崎市軽井川南製鉄遺跡」へ 行ってきました



古代 越の大製鉄コンビナート 柏崎市 軽井川南製鉄遺跡群 530 2007.5.15.

0.28平方キロメートル(約530m*530m)の広大な地に約20を超える製鉄遺跡がある 後方右手奥 米山

古代の大製鉄遺跡が日本海側の東北をにらむ地 柏崎で出てきた聞き、昨年資料を送っていただいたりしていましたが、やっと行ってきました。保存がきまっておらず、もうなくなっているのでは…と心配していましたが、かろうじて 見ることができました。

柏崎市南 西に米山を望む小さな枝尾根が多数広がる 0.28 平方キロメートル(約 530m*530m)広大な丘陵地 柏崎フロンティアパーク建設の造成用地に周辺隣接地を含め、8 世紀末から 12 世紀に掛けての 27 もの製鉄関連遺跡があり、20 基以上の製鉄炉 100 基を超える木炭炉が出土。

発掘記録がとられたものから、すでに一部もう造成地になってしまっていますが、かろうじて、造成地の一番北東地区の千刈・大願寺地区に残る発掘された製鉄遺跡群を見ることができました。

残念ながら、この地区も造成に回されており、もう 壊されるという。枝尾根の斜面に整然と製鉄炉・木炭炉が建ち並ぶ姿はほかでは見られない。規模の大きさにびっくりしましたが、ここもまもなく造成地へ。

日本海側に出土した古代の巨大な製鉄コンビナート 大和王権の拠点製鉄所に違いない。
大和王権の蝦夷対策・東北経営の拠点と夢を描いていましたが、柏崎市遺跡考古館の学芸員の人の話では、蝦夷征伐が終わってからの 9 世紀がこの遺跡群の最盛期で、出土している鋳物型なども武器・武具というより、生活用品だという。この造成地に隣接して 自然を生かした広大な柏崎・夢の森公園が造成されているというのに、こちら側が残せない。でも すごい 遺跡です。 ゆっくりまた、まとめます。



古代 越の大製鉄コンビナート 柏崎市 軽井川南製鉄遺跡群 千刈・大善寺製鉄遺跡地区 2007. 5. 15.



長方形箱型炉



半地下式竪型炉



半地下式竪型炉

千刈 C 製鉄遺跡地区の製鉄炉周辺

翌日訪れた弥彦山 九州英彦山 播磨の雪彦山と並ぶ金属精錬・とりわけ銅と関係の深い日本三彦山の一つ。もっと厳しい山かと思っておりましたが、越後平野の真っ只中に浮かぶ島のような存在。
飯豊・奥只見 守門岳 越後三山がぼっかり浮かぶ手前に太陽に映える越後平野 そして 海岸沿いに南には柏崎から出雲崎へと続く砂鉄の浜 その端に寺前の港 海のはるかかなたにうっすら佐渡が浮いていました。
佐渡金山など金属資源の島の佐渡 佐渡から見ると海の向うに浮かぶこの弥彦山から吹きつける風が金属精錬にかかせず、信仰の対象 三彦山に数えられるゆえんであるという説もある。
田圃に水が入って 太陽に映える越後平野 まもなく田植えが始まると入梅です。

■ 縄文のストーン サークル



糸魚川市 寺地遺跡の配石遺構のジオラマ

縄文文化の一例 火焰土器 & 土偶

長岡市県立歴史博物館ジオラマ サークル状の2つの配石が繋がれ、片方に4本の木柱が立っている

森の文化と呼ばれる縄文の魅力は どきにみなぎるダイナミックな造形と文様とともに、縄文の精神文化の象徴といわれる謎のストーン サークル・謎の木柱列。

大分歩きましたので、今までに訪れたことのある ストーンサークルをまとめようとしています。

ストーンサークルの目的はほぼ 共同墓地 分かれていった集落をつなぐ共同の祭りの場などといわれています。

天と大地をつなぎ、異界をつなぐとされる縄文の巨大木柱。これらが同じ遺構に見つかるのが、僕のイメージに一番近いと思っていたのですが、なんと新潟県長岡の県立歴史博物館にそんな縄文遺構を示したジオラマが展示されていました。それも かつて訪れたことのある糸魚川市寺地遺跡の配石遺構。ビックリで 新潟の帰りに立ち寄ってきました。おりしも、三内丸山縄文遺跡や秋田大湯・伊勢堂岱遺跡や北海道鷲ノ木5遺跡などストーンサークルを持つ遺跡が繋がって 世界遺産登録を また石川県真脇のウッドサークルも世界遺産登録を目指すという。

縄文の文様・文様倣度の稚拙さなど物づくり手法の連関から集落のネットワークを調べる小林青樹さんたちのグループの話聞いた事があるのですが、ついに 弥生の始まりを示す遠賀川土器に東北の縄文の特徴が現れている。弥生の初期にすでに縄文人が北九州の弥生人の集落にきていた可能性があり、密接な接触があったことがわかってきたと新聞に報じられている。縄文を無視すれば、無視するほど 縄文の新事実が出てくる。今縄文が面白い。まとまったら また お知らせします。

縄文のストーンサークル なぜ円環に? そして そのアクセントとなっている日時計状 立石配石は何を意味するのでしょうか???

諏訪・伊勢の御柱につながると思われる巨大木柱 これも謎

みなさんには どのように映るでしょうか・・・



青森 小牧野遺跡
ストーンサークル



北海道森 鷲ノ木遺跡
ストーンサークル



大湯ス中野堂トーンサークルの日時計状配石

やっぱり、2か月分一緒に掲載しようとするのが多くて 無理ですね・・・

ちょっと 中途半端なものになってしまいましたが、元気にやっています。

また、ご意見 情報など メールください。

ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

1. 古代物部氏のルーツ伝承 備前一宮 「石上布都魂神社」を訪ねて Country Walk

鉄道もバスもなし 中国山地の山又山の中 とってもミステリアスな Country Walk 2007.3.15.

3月15日 春 JR18きっぷで出かけた古代製鉄を支配した物部氏ルーツといわれる吉備中国山地の石上布都魂神社。歴史作家の関裕二氏の「古代大和王権確立に出雲とともに動いた吉備=物部氏」説に非常に魅かれています。その根拠になっている岡山県中国山地の中にある「石上布都魂神社」 大和石上神宮の元宮だという。大和石上や河内に本拠を置いて 古代大和王権の軍事・生産部門を担った物部氏。 古代の製鉄・鍛冶の中心的役割をもはたした大豪族。 大和へ入る前のルーツは定かではなく、九州や西出雲だともいわれている。



物部氏のルーツとも言われる岡山県赤磐市 中国山地の山又山の中 石上 布都魂神社 (元宮 磐座)

この布都魂神社周辺岡山東部から中部にかけての中国山地は古代吉備の大製鉄地帯で、物部氏の痕跡が点々とあり、この周辺には何度も出かけたことがあるのですが、「石上布都魂神社」については 詳細知りませんでした。

この「石上布都魂神社」の位置を地図で調べると、岡山県東部を南北に流れ下る旭川と吉井川に挟まれた中国山地の山の中 赤磐市石上。それも道のないところに神社の印。また、石上の地名が隣り合って 御津町にも吉井町の両方にあり、御津町は旭川流域につながる岡山市吉井町は吉井川流域の赤磐市。

生活圏が違うだけでなく、古代の吉備の中心につながるには旭川流域でないとはなしがあわないし、私の知っている物部氏の痕跡も旭川流域。

赤磐市役所に電話で石上布都魂神社へのアクセス聞くと「車でないと・・・。」という。そして「岡山市と岡山東部湯郷温泉の近く姫新線林田駅を結ぶ急行バス路線で仁堀で降りて、後は1時間ほど歩いてください。最寄の鉄道駅はありません」と不思議そうにいう。

ほんとに どんなところだろうか・・・ 歩いていって 帰れるのだろうか・・・ と物部氏をさておいて その位置にも興味津々。

行ってこれらの謎解けましたが、ミステリアスな所でした。



岡山県赤磐市 中国山地の山又山の中 石上 布都魂神社の位置

でも 山また山の深山でなく 里山が連なる明るい場所の山の中に隠れるようにありました。

誰もいない山中の岩山を登ると 大きな磐座がそのままどっしりと座っていて、 山又山を見下ろしているのには やっぱり、この地が中心であった時代があったかも・・・と、感激でした。

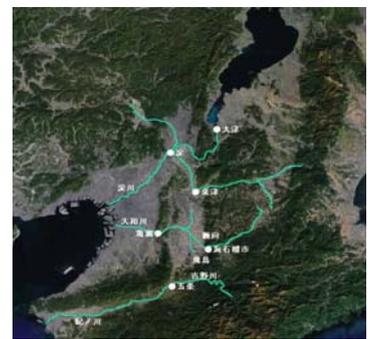
2. 古代 大和への鉄の道【2】 大和川 「亀の瀬・龍田越」 Country Walk 2007. 4. 20. & 4. 29.



大和川 亀の瀬



三郷町の和側土手より 龍田山を望む



古代大和への入り口は3つの水系

日本誕生に関わった古代大和への鉄の道。

前回の淀川・木津川そして奈良坂を訪ねる walk に続いて 淀川水系の難所 亀の瀬 そして 龍田山越の古道を訪ねました。



大和川 亀の瀬 walk Map



亀の瀬周辺の衛星写真からの亀の瀬鳥瞰写真

河内と大和を隔てる壁となつて南北に連なる金剛・葛城山地と生駒山地。

その間の切れ目 亀の瀬を急流となつて流れ下る

大和川。古代 難波から三輪山の麓「海柘榴市」の港まで大和川を遡って都についたと記されているが、本当に亀の瀬を遡れるだろうか・・・

単純に亀の瀬を見に行こうと始めたこの walk ですが、この渓谷周辺は大阪湾から吹き上げる風の通り道。大和側の渓谷の入り口三郷には風神 龍田神 を祭る龍田大社があり、渓谷の北側龍田山の上には古代製鉄集団「雁多尾畑」の集落が頂上近傍の尾根斜面に広がりあり、山中には古代製鉄遺跡の痕跡が点々とありました。

また、この龍田山・亀の瀬は その素晴らしい景観とともに 古代から日本有数の地滑り地帯。今もその防止の大工事が続いていましたが、その地滑りで崩れた山からは 磁石にひつつく石がゴロゴロ。この地域で初期大和王権の大製鉄鍛冶工房が開かれるのは この亀の瀬に散らばる鉄鉱石ではなかったか・・・と。

いつも電車から眺めていた「亀の瀬」 行って見るのでは大違い。 オモシロイというちょっと問題がありますが、こんなに面白い里山 そして 古代製鉄の里が近くにあったとは・・・そんな感じでした。

■ Country Walk 風来坊

1. 写真アルバム 「2007年5月 新緑の野山で」

- 滋賀県日野町鎌掛 石楠花谷
- 大阪府二上山周辺で
- 葛城山の南斜面 深紅の花を敷きつめる山ツツジ
- 新潟県 弥彦山から見る越後平野
- 新緑の里山 大和川 亀の瀬・龍田山
- 神戸 北野の市街地 旧水源地のツツジ



二上山 上の池 亀の瀬 地滑り対策 弥彦山より 越後平野 山つつじ満開の葛城山南斜面

桜の花が咲き終わると野山の花は石楠花とつつじ。 やっぱり 山に入って 自然の中に咲く石楠花とつつじを眺めることができました。

また、久しぶりに 神戸のつつじの名所 北野の旧水源地にも出かけました。

大和と河内を分けて 南北に連なる金剛・葛城山地と生駒山地。

この切れ目の溪谷を大和川が河内へ流れ下る。この周辺は龍田越 大和への古道が亀の瀬の難所を避けて通る。この古道を訪ねてみた新緑に包まれた春の里山。本当に素晴らしい景色でした。

そして、田圃に水が入り、田植えの準備が始まるとまもなく入梅。 田園風景がもっとも光り輝く時期。 思いもかけず、そんな越後平野の風景を見てきました。

なんやかやいいながら 風来坊でこの春訪れた野山の風景の写真アルバムです。



滋賀県鎌掛 石楠花谷 神戸北野旧水源地のつつじ 葛城山満開の山つつじ 新潟県柏崎 砂鉄の浜

■ 思いつくまま from Kobe

【from Kobe 6月】 「この春 風来坊で感じた地方の疲弊 」

地方格差・公共交通の崩壊が進んでいます そして 中央では絶対見えないほころびが・・・

7.

2007年 7月 「IRON ROAD 和鉄の道」

2007. 7. 8.



山口県防府市牟礼上阪本 阿弥陀寺の紫陽花 2007. 6. 12.



6月中旬 山口県 美祢に行きました 左より 日本海豊浦海岸 仙崎の町 下関海峡 2007. 6. 9.



越後の名峰 弥彦山と弥彦山からの越後平野ならびに寺泊海岸 2007. 5. 16.

5月に出かけた日本三彦山のひとつ弥彦山は越後開拓の神 鍛冶神の伝承がありました

7月のホームページ更新をしました。

ホームページの背景の壁紙は6月 久しぶりに訪れた山口県長門 青海島の海の色です。断崖絶壁の続く青海島の外海側と仙崎湾を作る静かな内海。久しぶりに青海島の観光船に乗って見た断崖下の岩場 黄金洞周辺の海の色 青海島の海です。

梅雨の真っ只中うっとおしい天候が続いていますが、いかがでしょうか地球温暖化の影響か？ 梅雨も今までの常識が通用しない男性的な集中豪雨が局所を狙い撃ち 気を付けてください。

梅雨になるといつも気になっていた溶接材料の湿気 今年も 忘れかけていました やっと会社人間から脱出できたのでしょうか・・・

でも 一緒に仕事してきた会社人間の一人が、思いもかけず 春 なくなつたと聞きました。 ぼくが職を離れる頃 大病をして 病気と闘いながら会社復帰ががんばりとおした会社人間。今は安らかに・・・と。



長門青海島 黄金洞周辺 2007. 6. 9.

HPの背景に使った青海島の海です

随分会社からは離れたと感じています。

欧米では 多くの人たちが隠遁生活を楽しむといいますが、会社人間であり続けて終える一生と第二の人生をはじめて終える一生と日本ではどっちがいいのだろうか?? ふっと そんなことが頭に浮かんだ6月。

また 多くの人々が今までの職を離れ、新しいスタート。

先日も出会った同世代の仲間は新しい会社ビジネスを起こすと目を輝かしていました。

僕には もう そんな世界に飛び込むこと出来ませんが、そんなエネルギーに万歳です。

「縄文のサヌカイト鉱山 二上山の周辺で サヌカイト探すのですが、見分けがつかぬ」とふっと話したのですが、「二上山で拾ったサヌカイトの石をもって来たげた」と大きな石を黒曜石などのコレクションと一緒に持ってきてくれました。

こっちはこっちで古代史や鉄の探索に夢中です。

そんなこともあって ふっと 上記のような感慨にふけた次第。

どっちでもいいのですが、夢中になる世代 それがいつまでもつつけばいいと願っています。

2007. 7. 8. 神戸にて Mutsu Nakanishi

■ 6月中旬 山口県美祢に行きました

萩焼きの陶芸作家 田中講平さんが 「日本工芸会山口設立 50 周年第 30 回 記念伝統工芸新作展」の大賞を受賞されたお祝いと山口市で開催された陶芸展を是非見たくて、半年振り 6月8日から1週間 山口へ行ってきました。

田中さんの作品は僕の一番好きな青色 青白磁草花文鉢の大作。 一点の曇りもないこの「青」と60センチを超える大作でありながら 均整の取れた素晴らしい底から上面へのウェーブ。やっぱりすごいなあ・・・と。

写真では中々色がでないので・・・

どうぞ 田中さんのホームページごらんください。



陶芸 そして 山口のよもやま話 田中さんご夫妻と夜遅くまで語って また ひとつ 「萩」の深さを知りました。

また、6月中旬は 美祢の谷間の小川に蛍が乱舞するシーズン。

「今年は是非 河に飛び交う蛍をみにいこう」と神戸からの行く道で話していたのですが、真っ暗な川面に飛び交う蛍を豊田湖のダムから少し下がった木屋川で見ることが出来ました。会社横の川にも蛍が飛び交ったのですが、河の改修などで 街中近くではめっきりみられなくなり、美祢の蛍自慢も出来なくなっていました。

隣の豊田町(合併で下関市豊田)の木屋川は蛍鑑賞船「蛍舟」が出る西日本有数の名所。今年も蛍舟が出るという。

「家内に本当にいるの」と信用されていなかったのですが、誰もいない真っ暗闇の峠にかかる集落のはずれの暗闇の中に「点いては消え 点いては消え」。川を飛び越えたり 高く舞い上がるのもいる。

静寂の中の無言劇に見とれていました。

前にここで 見たのは随分前 僕だけの場所なのですが、時期があって 本当にラッキーでした。

蛍の乱舞する様子を一度は写真にしたいのですが、成功せず。

次の機会はタイマーつきカメラで三脚置いて・・・取って置き場所です。

また、家内が大宰府知らないというので、大宰府と新しく出来た九州博物館 そして糸島半島の付け根 新しく九州大学が移転中の元岡キャンパスにも行ってきました。

元岡キャンパス周辺は大陸・朝鮮半島に備える古代大和王権の武器庫 大製鉄コンビナートのあったところ。

大学も 独立法人になって 見学者用のコース 見学者用案内所までありました。

そのうち入場料取られるかも・・・と思われるほどのいい建物群と素晴らしい場所でした。

もっとも 元岡製鉄遺跡群の話にはちんぷんかんぷんで、がっかり。

でも きっちり 下見が出来ました。 また 後日 ゆっくりまとめます。



九州 大宰府 (左・中) と右端 古代の大製鉄コンビナートがあった九大元岡キャンパス 2007. 6. 10.

まもなく 祇園祭 早く7月の更新しないと 思いながら 映画も見たいし・・・

第二の生活エンジョイ組の仲間も増えて 酒飲むのもたのしみ

「発掘された日本列島 考古学新発見速報」2007 年展か東京江戸博物館で始まり、そっちの新しい展開も気になる。

家内ほどでは ありませんが、あっちへふらふら こっちへふらふら

ホームページの更新が、ついつい 今日になってしまいました。

5 月訪れた越後 弥彦山 Walk と越後の古代の大製鉄コンビナート柏崎軽井川南製鉄遺跡訪問記ならびに 山口に行って久しぶりに訪れた 金子みすずの暖かい詩にふれられる長門市仙崎の街 Walk などをまとめました。

今までに訪れたストーンサークルなど縄文遺跡を「円環」と「御柱」をキーワードにまとめようとはじめたのですが、まだ、中途。紀ノ川や御所にも生きたいし、紀ノ川沿いの山に磁石石 そして 関西では「鉄」を背景とした継体天皇の足跡と福井がブームと友が教えてくれる。韓国慶州の鉄も見に行きたい。 興味の対象はひろがるばかりです。

また、沖縄・広島・長崎 そして 街では 参議院戦 「平和」 「平和」 の言葉が耳に入ってきます。

はっと「平和」の言葉に「自分になにができるのか」を思い巡らしています。

「核抑止力」の屁理屈よりも「核は廃絶あるのみ」

「平和を」とつぶやくことしかできませんが、それも第一歩です

地球環境にも待ったなし

自分がいやおうなしに 関わらねばならぬ時代に差し掛かっています。

今月も雑な更新になりましたが、元気な印 お付き合い下さい。

また、次は 9月更新とさせていただきますが、感想・ご意見など お聞かせ下さい。

2007.7.8. ホームページ 更新 思いつくままに Mutsu Nakanishi

ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

1. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk 古代鉄の国「越」 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して



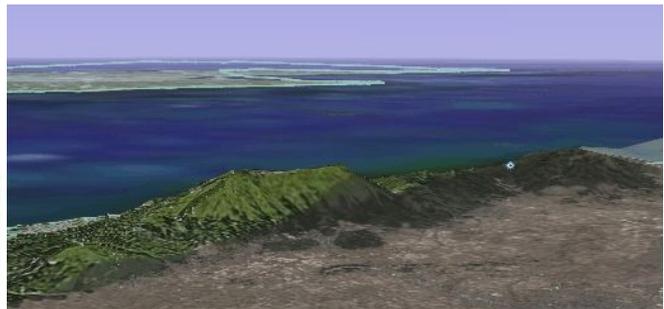
1. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk
2. 越後平野の不思議な地形 謎の越後平野 (資料)
3. 弥彦山と鍛冶神伝承 (資料)

5月に出かけた越後 弥彦山 walk をまとめました。

弥彦山は日本三彦山の一つ 越後平野のどこからでも見える山 越後開拓の弥彦の神として人々の崇敬をあつめてきた。

この弥彦山に古代鉄の痕跡を訪ねました。また から不思議で仕方なかった新潟への JR 鉄道網やこの弥彦山地をふくめ、越後平野は不思議な地形。

その謎を調べました。この越後平野が日本の大地溝帯フォッサマグナの中にすっぽり収まること そして このフォッサマグナ帯が越後の謎に深く結びついている。



2. 古代「越」の大製鉄コンビナート 越後柏崎 軽井川南製鉄遺跡群を訪ねて



1. 柏崎 軽井川南製鉄遺跡
2. 柏崎市遺跡考古館を訪れ 砂鉄を見に柏崎海浜公園へ
3. 軽井川南遺跡群のの製鉄炉 再度 軽井川南製鉄遺跡へ 製鉄炉の確認
4. 柏崎 軽井川製鉄遺跡群を訪れて まとめ

自立できるようになった鉄の生産を背景に 律令体制を確立した大和王権はその支配力をたかめて、地方経営に乗り出した。畿内で量産安定化に成功した新しい大型たたら炉をペースに鉄素材の生産から鍛造・鑄造による製品までを作る大製鉄コンビナートを各地の重要拠点につくったとおもわれる。

東国経営の日本海側の拠点「越」でそんな大製鉄コンビナートが見つかった。

蝦夷征伐の拠点化とおもっていましたが、その後9世紀の大製鉄コンビナート。

甲子園の約20倍の広い丘陵地の幾つもの丘陵地の斜面に 幾つもの製鉄炉や木炭窯が発掘されたままの姿で立ち並ぶのは壮観でした。 こんな大きな製鉄コンビナートが柏崎で300年以上も営まれた経緯は未だ謎。

でも すごい製鉄遺跡です。

でも もう まもなく 柏崎フロンティアパークの用地に消えてしまう。しっかり見ておかねば・・・と見学してきました。

日本文化の源流に深くかかわってきた鉄 個々の製鉄炉だけでなく コンビナートの役割を担った全体が保存できないものか???? と残念です。

いつ壊されてしまうかと気になっていましたが、本当に最後 発掘されたままの姿で立ち並ぶ製鉄遺跡遺構群を幸運にも見ることが出来ました。



■ Country Walk 風来坊

1. 久しぶりに童謡詩人「金子みすず」の街 長門市仙崎を訪ねました



「前に紹介してもらった金子みすずの街 長門市仙崎へ行ってきたよ。金子みすずの詩の札が家々の軒先に下げられていて、それを眺めながら ゆっくり歩いてごく 良かった」

6月9日 山口県美祿でくつろいでいて、ふっと友達の言葉を思い出して、半日ぶらぶら仙崎の町を歩きました。

手作りの金子みすずの詩の札が街の通りを見守っている。

友達に教えてもらうまで、こんなにゆったりすごせる街になっているなんて知りませんでした。

熟年者の鈍行の旅にはお勧めです。 また もう よくご存知だと思いますが、金子みすずの詩も是非 お勧め。

2. 写真アルバム 防府 阿弥陀寺のあじさい

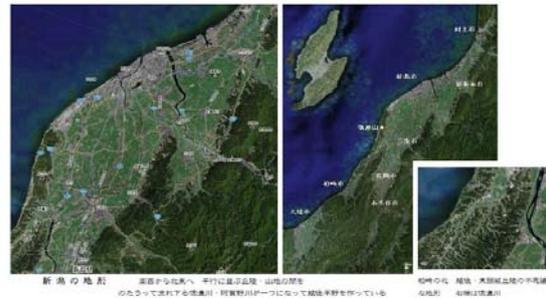
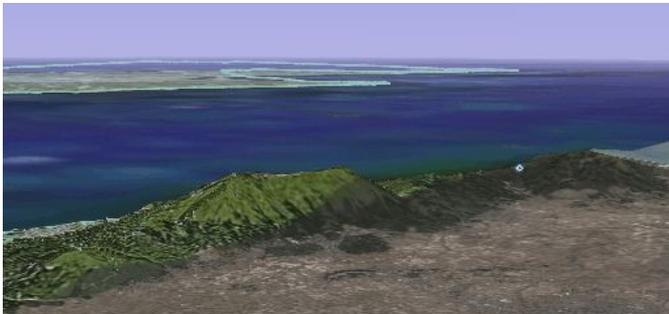


山口県防府市の山裾 牟礼上坂本に紫陽花で有名な阿弥陀寺。

ホームページのトップに掲載した紫陽花の数々。淡い緑につつまれた境内の池や山の斜面いっばいに 数々の紫陽花が咲いていました。 いろんな種類の花に家内は名前を確かめ、目を輝かせていました。

梅雨時の雨あがり やっぱり この時期 一番美しい花 この花が咲くと夏まじかです。

3. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk 古代鉄の国「越」 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して



1. 日本三彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk
2. 越後平野の不思議な地形 謎の越後平野 (資料)
3. 弥彦山と鍛冶神伝承 (資料)

「和鉄の道」に掲載した越後 弥彦山walk Country walk 風来坊にも掲載しました。

深田久弥が「日本百名山」のあとがきで

「山 高さをもって尊しとせず。だが、ある程度の高さが無くては、私の指す山のカテゴリーには入らない。例えば、越後の弥彦山や、京都の比叡山や、豊後の英彦山など、昔から聞こえた名山には違いないが、あまりに背が低すぎる」と書いた山。

1000mにも満たないやまですが、すばらしい景色と古代からの伝説を秘めた山です。

また 新潟の地形の謎解きもおもしろかったです。

8.

2007年 8月 「IRON ROAD 和鉄の道」

2007. 8. 1.

ひまわりの夏
暑中お見舞い申し上げます
2007.7.29.
by Mutsu Nakanishi



兵庫県小野市 ひまわりの丘で 2007. 7. 29.

小野市淨谷の里 2007.7.26.



浄土寺の 国造 天竺様式の浄土堂と 偲ぶ夕日に輝く 杖康作 国造 阿弥陀三尊坐像



国道175号線沿い 6畝の丘



神戸スカイスタジアム 花火ナイト オリックスー楽天戦 2007.7.27.

9.

2007年 9月 「IRON ROAD 和鉄の道」

2007.8.25.



2007年 夏 近畿の里山で

まだまだ 猛暑が続いています いかがお過ごしでしょうか……

思いがけない 中越沖地震の発生。5月に出かけ、親しく出会って 色々教えていただいた柏崎・弥彦山の街が被災。心配しています。TV の画面を見るたびに 一日も早く 元気に立ち直られることを祈っています。

季節感が1ヶ月ほど ずれたような猛暑の暑い夏が続き、また この間に本当に色々ことがな事が起こって、頭の中が混乱していますが、皆様のところではいかがでしょうか???

2ヶ月ぶりの更新 9月のページにホームページを更新しました。

お盆の大型連休 サラリーマン時代の「さあ 休み」とごった返す新幹線に飛び乗った感覚は遠い昔になりましたが、東京から 娘一家が帰ってきて、本当に華やいだ1週間。アニメの映画に 水族館 海水浴 恐竜の化石を見に行ったり、四国で拾ってきたカンカン石で縄文の包丁の実演やって、パソコン使って トーマスの自動車やアニメの主人公のスライド見せたり。「今年は おじいちゃん 作文に登場するために がんばったね」と孫娘。

元気に帰って行って、また、静かな日々に戻りました。

本当に暑いアツイ夏でしたね。 と言っても まだこのまま続きそうですが……。

猛暑が続き 世の中の殺伐度もさらに ヒートアップ。でも 参議院選挙があって、 やっと 薄っぺらな言葉に酔ったような多数決万能・効率万能の方向に歯止めがかかって、風向きが少し替わったようです。

8月5・6日広島でのクリスチャンの平和の祈り・平和行進 今年も出かけましたが、本年は昨年以上に「平和の願い・祈り」や「平和行進」の訴えが、力になって行くように感じています。

一方 「今 やらなければ……」「風化させてはならない」の切実な声とともに、世代をつなぐことの重要性や難しさも感じて帰りました。



広島でのクリスチャンの平和の祈り・平和行進 2007. 8. 5.

言葉に酔って みんなと一緒に 己を他人に任ず時代。「はっと」 我に返って 振り返ってみれば 自分も取り残され、繁栄は はるか かなたのよその人。切り捨てられた人の痛みが解る
何か 変わりそうな 変わるわることへの期待がもてそうな時代
そんな 一つに 少しでも 自分が参加できれば……と。
そんな 8月 歩いていて 感じたことをそのまま気ままに記しました。

7月 8月とあいかわらず、足の向くまま 気のむくまま歩くのを楽しんでいますが、今月は今まで溜まっていたものなど少し整理して更新しました。

梅雨が明けるのを待ちかねて、 古代大和へ入る道 残っていた和歌山 紀川流域の walk をはじめました。この川筋は古墳時代から 大陸・朝鮮半島と大和を結ぶ和鉄の道 古代鉄の痕跡が必ずあるはず。和歌山から橋本・五条そして吉野から大和へ。馬のいない5世紀 本当に紀川を大和までさかのぼれたのだろうか……それを確かめたい。調べていて見つけた 紀川沿いの紀州富士「龍門山」の地区にある「磁石岩」そして ここを本拠として 朝鮮半島との交易を担った紀氏の物と思われる大古墳群が丘陵地にある。(紀伊風土記の丘 古橋古墳群)



紀川河口の和歌山製鉄所 遠望 麓を流れる紀ノ川を見下ろす龍門山

大陸・朝鮮半島と古代大和を結ぶ和鉄の道 紀ノ川流域 2007.7.24.

紀川沿いには足を踏み入れたことなく、僕の頭は 子供の頃の 九度山 霧隠才蔵・猿飛佐助の活躍する深山の世界

そして、中央構造線沿いに鉱物資源や水銀などを求めて 山伏達が分け入った世界をイメージしていましたが、そのイメージとはまったく違う明るい谷筋で 大阪近郊の田園都市ベットタウンで、 そんな中を 東の大峰・吉野の山から西へ とうとうと 紀川が流れていました。また、昔 随分通った紀川河口の和歌山製鉄所 その姿を 久しぶりに 紀川鉄橋や山の上から見られ、懐かしさでいっぱいでした。

そんな中から 第一弾 紀川沿いに秀麗な姿でそびえる紀州富士「龍門山」へ「磁石石」を確認に行こう。いけば 何かがあるはずと、夏の青春18キップ片手に登ってきたハイキングの記録をまとめました。

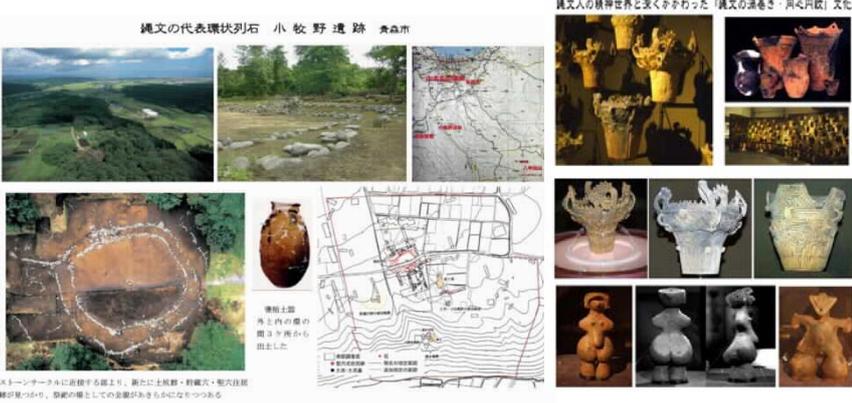
6月山口へ行ったときに訪ねた福岡九州大学の新しい伊都キャンパス内 古代 大陸からの侵攻をにらんだ大和王権の大製鉄コンビナート元岡遺跡の walk をまとめました。もう キャンパスの建設が進んでいて 遺構そのものは見られませんでした、玄界灘に突き出た糸島半島と建ち並ぶ製鉄遺跡万葉集 防人の歌でしか知らなかった世界に一步 足を踏み入れてきました。



また、6月 山口美祢の仲間がメールで送ってくれた素晴らしい山口県油谷半島の棚田の夕景の写真や 以前から行きたかった四国鳴門の大塚美術館の数々の西洋絵画原寸の陶板画にも出会ってきました。どちらも A4 判の写真アルバムに整理しました。



縄文の会で自分の番がまわってくる。何をしゃべろうか・・・と。製鉄遺跡の遺構も随分たずねましたが、その中で縄文遺跡にも随分 寄り道。なんせ、どちらも山裾の山の斜面。製鉄遺跡が 里から見えぬ谷に面していることが多いのに、縄文遺跡は展望が効く すばらしい景色のところが多い。その中で見た 日本人・縄文人の心の故郷といわれる「ストーンサークルなど円環」出かけた縄文の円環遺構遺跡を整理して紹介しようとまとめました。それを PDF file にしましたので、一緒に掲載。みなさんには 縄文の円環 どう 映るでしょうか・・・



9月の声を聞けば 秋 でも今年は1ヶ月 季節がずれているようです。まだまだ、暑い日々が続きますが、ご自愛下さい。また、季節の便りなど 御知らせ下さい。

2007.8.25. 神戸にて
Mutsu Nakanishi

ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

1. 古代 九州の大製鉄コンビナート 福岡元岡製鉄遺跡群を訪ねて 2007.6.10.



1. 元岡製鉄遺跡群が眠る九州大学 伊都新キャンパス walk (1) センター地区
2. 古代の製鉄炉群遺構が出土した 12 次調査地点・24 次調査地点の製鉄遺跡 概要
(「鉄と古代国家 ～今治に刻まれた鉄の歴史～」福岡市元岡・桑原遺跡の調査概要(菅波正人)より)
3. 元岡製鉄遺跡群が眠る九州大学 伊都新キャンパス walk (2) 東地区と総括

8世紀 律令体制の整った大和王権は地方拠点に官営の大製鉄コンビナートを経営して その支配力を高めていた。一方 大陸からの侵攻におびえ、全国から防人を徴用し、防備の体制を整えていた。玄界灘に突き出た糸島半島の丘陵地には、整然と多数の製鉄炉が建ち並び、重要拠点九州の鉄の大供給基地であった。いま、この地には九州大学の伊都キャンパスが建設中。福岡市の西端 古くから 伊都国として栄えた丘陵地 素晴らしい眺めの丘に整然と製鉄炉が建ち並んでいた。一度 出かけたかった場所。やっと実現しました。



2. 縄文の心を映すストーンサークル 【PDF file】

縄文の遺跡を訪ねて 風来坊 縄文の円環遺構 レビュー



1. 縄文の時代区分と縄文文化
2. サークル遺構のある縄文遺跡リスト
3. 円環遺跡を有する縄文遺跡【1】
4. 円環遺跡を有する縄文遺跡【2】
5. まとめ 縄文のストーンサークルとは???

参考 1. 木柱列と配列遺構の両方が一緒にみつかった糸魚川市寺地遺跡

参考 2. 縄文の社会と文化概説

縄文人が育んだ森の文化。 ストーンサークルと御柱はそんな縄文人集落の象徴か????

縄文の交易品「翡翠」の原産地近く糸魚川市の海岸に近い高台に ストーンサークル状の配石遺構と御柱の両方があり、翡翠の加工工房を営む縄文集落がある。これは 縄文の村の完成品か・・・と強く魅かれました。縄文人の心を映すといわれる円環が木や石で数多く表現され 各地に縄文以降として残っている。随分歩いたと ふっと気がついて これらを整理してみました。

3. 古代大和への道【3】 紀ノ川水系【1】

紀ノ川のランドマーク 紀州富士「龍門山」に磁石石を訪ねて Walk



1. 紀ノ川のランドマーク 紀州富士「龍門山」へ
2. 紀ノ川にかかる龍門橋を渡って 龍門山登山口へ
3. 田代峠を経て磁石岩へ
4. 磁針が狂う磁石岩
5. 龍門山頂上と紀ノ川流域の展望
6. 帰路は蛇紋岩の巨岩「明神岩」から、中央コースを降りる
7. 龍門山温泉につかって、龍門山 walk を振り返って



古墳時代 大和に膨大な鉄が集積し始め、纏向 そして三輪王権が成立してゆく。

大和へ卑弥呼が外からやってきたとしたら、どの道から入ったのだろうか????

鉄は当時 鉄素材の供給を朝鮮半島に頼り、朝鮮半島から 大和への鉄の道があった。

いったい この鉄の道はどこを通過していたのだろう。

馬が入ってくる以前の時代もふくめ、候補ルートは淀川・木津川 大和川 そして、紀ノ川の3つ。

紀ノ川を当時 大和へ遡れるか???? この流域に鉄の痕跡を探すカントリーウォークのその第一弾。

紀ノ川の河口から見え、古くから 海行く人の目印になっていた秀麗な山が紀ノ川が麓を流れ下る紀州富士「龍門山」

その頂上付近にはコンパスの地震が狂う「磁石石」があり、この石を含め、このやまの山頂部には鉄分の多い蛇紋岩と聞く。この山へ登って 紀ノ川の流れを見たい。そして 近畿でやっと確認する磁石石。

梅雨が明けるのを待ちかねて 出かけました。

■ Country Walk 風来坊

1. 鳴門 大塚美術館に西洋美術 2000 年の陶板画を訪ねる

パチカン システィーナ礼拝堂の天井画 完全復元 祝別式に参加



2m*1m の大形陶板を並べて 原寸で完全復元された西洋絵画の名品の数々。

本当に現物を見ているのと変わらぬ完全復元にビックリ。その膨大な数。自分の知っている絵に何枚となく出会え、しかも顔をくっつけて、好きな絵の前で写真撮るのも ok。その膨大なコレクションが系統的にならべられているのもいい。疲れたら、庭に出て、鳴門の潮風に吹かれながら、海を見るのもいい。

ちょっと 入館料が高いのが、気になりますが、 ゆったりと すきのように 好きな絵を見られるのがいい。

セラミックスにもかかわった私には 絵もさることながら この大判の薄い陶板が 歪もなしに焼け多事にもびつくり。すごい技術です。

今回 初めて 訪れた美術館 どんな絵があるのか 僕のデジカメで撮れた写真で紹介です。

パチカンのシスティーナ礼拝堂のミケランジェロの最後の審判と天井画が完全復元され、礼拝堂(ホール)として 完成した祝別式にも参加。ミケランジェロの最後の審判 ならびに 天井画に描かれている人物などの絵の解説をうかがいましたので、一部わかる範囲で載せました。

神戸に近いので、うれしい美術館 お勧めの美術館です。入場料がもっと下がれば よいのですが・・・・。

2. 写真アルバム 山口県油谷半島 棚田の夕景 東後田の6月

美祢市の Y さんからの写真メール

7月の初め、山口県美祢市の Y さんから 山口県の日本海側 油谷半島の棚田の夕景が素晴らしいと写真を送っていただきました。

その写真アルバムです。

この油谷半島の下の海では この季節 イカ漁が盛んで、その漁火と棚田の両方が写っていて、私も自慢したくなる山口長門の景色です。

山口県 油谷半島 棚田の夕景 油谷半島 東後田の棚田 6月



山口県 油谷半島 棚田の夕景



山口県 油谷半島 東後田の棚田



山口県 油谷半島 東後田の棚田



山口県 油谷半島 東後田の棚田

■ 思いつくまま from Kobe

1. 8月 広島で感じたこと 風化させてはならないのは 何なんでしょうか .
2. この夏であった不思議な石 「カンカン石」と呼ばれるサヌカイトと蛇紋岩



縄文人の道具の原石 サヌカイト
叩き割ると 黒スパツと鋭い黒い剥離破面が出る
叩くときれいな金属音がして
「カンカン石」と呼ばれる



光沢のある蛇がら文様の美しい蛇紋岩
地球のマントルに一番近い成分の石
いま、地中奥深くで この蛇紋岩などに炭酸ガスを吸わせる
地球温暖化防止策の研究が進んでいます。

10.

2007年 10月 「IRON ROAD 和鉄の道」

2007. 10. 1.



2007年 初秋



実りの秋を迎えました 西神戸 伊川谷で



2007.9.28.

「収穫の秋」到来 田圃には稲穂が揺れ、その畦では曼珠沙華やコスモスの花が揺れています。

どうも1週間以上季節感がずれているようですが、やっと初秋の風景が見られるようになり、吹き渡る風も涼しくなってきました。「真っ青な空をバックにゆれるコスモス」と「実りの田圃 畦一面を赤い花が埋めつくす」そんな風景の中で 一気に日が短くなって、秋が深まってゆく。

今年は近畿でも 初秋の風物詩として 曼珠沙華の花が伝えられるようになりました。

一番印象に残る山口の初秋の風景なりですが、今年は西神戸の田圃でも。何かもの悲しいイメージが付きまとう花ですが、稲穂が揺れる夕暮れ 一番秋を感じる花です。

突き抜けるような 青空をバックに咲くコスモスは気分爽快 晴々。こっちは 行動的な気分を演出してくれます。

「曼珠沙華」と「コスモス」ではないですが、 気分があっちへ行ったり、こっちへきたりの毎日ですが、家の外へ出て Country Walk には 本当にいい季節です。

また、この秋には 思いがけない同窓会の誘いの連絡も。「懐かしく 行きたくもあり、 また ちょっと不安も」
「今 でかけんと いつまた会えるか 」と出来るだけ 顔を出すことにしています。



コスモス

稲 穂

曼珠沙華

オクラの花

オクラの畑



美濃市を流れる長良川 讃岐石の原産地 「金山」周辺 とうとうと五條を流れ下る紀ノ川 黒曜石の原産地 星糞峠
 2007. 9. 10. 2007. 8. 6. 2007. 7. 31. 2007. 9. 6

日本国中の JR 鈍行が一日乗り放題の切符 5 枚が一组 7 月末から 9 月 10 日までの「夏の青春 18 きっぷ」。今年は 四国坂出の縄文のサヌカイト鉱山 Walk と 古墳・古代時代の紀ノ川水系の古道「紀路」に古代鉄を訪ねる Walk に使いました。9 月 10 日 1 枚残った 18 キップで岐阜県の関・美濃へ行ってきました。

うまいことゆけば 東海/北陸縦貫ルート 旧の越美南線・北線をつないで白山越出来るかも…の期待もあったのですが、1 日ではやっぱり無理でした。また、鉄のなかった時代 時代を動かした石器材料 縄文の交易品について 原産地を訪ねたり、関西の縄文遺跡にも 今興味を抱いています。

9 月 5・6 日 縄文の仲間約 30 名で この春から計画していた「信州の縄文を訪ねて 伊那・塩尻・長和町星糞峠」の 1 泊 2 日のバスツアーに行ってきました。台風襲来の前日 雨を心配したのですが、なんとか持ちました。訪ねた遺跡でその地の学芸員の人たちから、ダイレクトに遺跡や遺物に触れられ、直接解説してもらえる魅力は、風来坊では得られないもの。今回も 黒曜石の星糞峠では 現在再調査中の遺跡をオープンしてもらって、話が聞けました。

また、信州の縄文土器や土偶など直に手を触れることが出来ました。縄文人は素晴らしい景色が展開する場所に住んでいる。そんな縄文遺跡の現地を見るのも楽しみなのですが、 残念ながら アルプスの遠望は出来ませんでした。やっぱり素晴らしい景色が展開するところでした。相変わらずですが、元気に過ごしています。

そんな Walk の記録を 10 月のホームページに追加しましたので、暇な折にでもごらんください。

また、いろんな情報・ご意見 お聞かせ下さい。

仲間の山の便りをもらおうと うずうず。この夏 立山・黒部ルートへ行きたかったのですが、膝に不安もあってよう出かけませんでした。でも 負け惜しみでないですが、 里山をゆっくり歩く楽しみもオモシロイ。

思いもよらぬ地形や人に出会えたり、気楽に里山の温泉探すのもいいものです。

神戸にこられたら、是非 お立ち寄り下さい。

2007. 10. 1. Mutsu Nakanishi



美濃市を流れる長良川 讃岐石の原産地「金山」 葛城 金剛山東麓 風の森峠 黒曜石の原産地 星糞峠
 2007. 9. 10. 2007. 8. 6. 2007. 7. 31. 2007. 9. 6

この9月 僕にとって この「和鉄の道」検討にとっては うれしいことがありました。

「鉄が日本にもたらされて自給できるまで 約1000年 なんて そんなにかかったのか???'」

「初期大和王権を支えたのは 朝鮮半島の鉄の覇権と通商路の支配連合だろう その痕跡は???'」

この答に近づきたくて 今も 古代の鉄にこだわって 歩いています。

あっちへふらふら こっちへふらふらでしたが、つい最近 神戸の本屋でみつけた愛媛大学 村上恭通先生の著「古代国家成立過程と鉄器生産」に出会って、眼からうろこが落ちる感じでした。

僕が不勉強で知らなかっただけかもしれませんが……

村上先生の日本に古くからある「精練鍛冶炉と沸かし付けの接合精練」が「たたら」製鉄・たたら炉の萌芽との説とその実証には納得。日本での たたら製鉄の開始の前夜 「精練鍛冶」の名で広くおこなわれるようになった「鍛冶炉での鉄素材への鉄器再生と鉄塊への沸かし付け接合精練」や、「不純物の多い小鉄塊の接合と鉄滓の搾り出し精練」などが日本の独自技術として発明されたとの論を実証展開されている。

5世紀 製鉄開始の前夜 大量の鉄滓を伴う精練鍛冶の日本各地での展開も古い時代からの各地に残る数多くの製鉄伝承と鍛冶と製鉄伝承の混用等々 不思議だった謎が同時に解けそうな気がしています。

これが 「物づくり」の技術伝統をつくりあげたのではないかと……と。

なんせ 1000年かかっているのですから……

やっと 自分でも 日本のたたら製鉄は 「日本固有の技術系」と思えるようになってきました。

まだ きっちり 自分の頭の整理がついていませんが、なにか 吹っ切れた気持ちです。

頭の整理をしながら、一度まとめたいと思っています。

2007. 10. 1.

Mutsu Nakanishi

ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

1. 古代 大和への道【4】 紀ノ川水系【2】

古代「紀路」紀ノ川の流れて大和へ Country Walk 2007. 7. 31.

1. 初期大和王権の重要路 紀ノ川水系と其処を本拠とする紀氏・葛城氏
2. 紀ノ川の流れて大和へ Country Walk
 - 2.1. 紀ノ川の入口を押さえ、大陸・朝鮮半島の窓口となった紀氏
 - 2.2. 紀ノ川の中流 古代大和の玄関口 五条
 - 2.3. 五条から陸路 金剛山の東麓 風の森峠を越えて 大和・葛城へ
3. まとめ

日本で製鉄が始まる前 3世紀後半から6世紀にかけて、朝鮮半島の鉄素材の覇権を巡って、日本各地の諸国が連合し、その確保に向かい、その絆の中から、邪馬台国・初期大和王権が生まれたという。

大和と西日本・朝鮮半島・大陸を結ぶ「鉄の道」。紀路はそんな古代大和の鉄の道の最重要路。

紀ノ川河口の和歌山から 中流の五条 そして 大和と紀ノ川流域の分水嶺 金剛東山麓の風の銚峠と紀ノ川沿いを歩きました。鉄の道で活躍した紀氏や葛城氏そして鴨氏の足跡に触れられた一日でした。



紀ノ川の河口 和歌山市
紀伊風土記の丘より



吉野から流れ下る紀ノ川
粉河 龍門山より



五条市を流れる紀ノ川
榮山橋より



紀の川流域/葛城の分水嶺
風の森峠周辺

2. 縄文のサヌカイト原産地 四国 坂出「金山」に「サヌカイト・讃岐石」を訪ねる 2007.8.6.



1. 坂出「金山」周辺のサヌカイト・讃岐石と「金山」にまつわる民話
 - 1.1. サヌカイトの生成とその特徴
 - 1.2. 四国 坂出 「金山・城山」周辺に伝わる民話
2. 城山と金山の鞍部 「奥池」周辺で 「サヌカイト」に出会う
3. 城山と金山の間から サヌカイトを探して 「金山」を越える
4. サヌカイトの原産地 縄文のサヌカイト鉱山 坂出の「金山」を歩いて



四国坂出の街の背後北側にぼっかりある小山「金山」。縄文人達が道具や武器制作の材料として採取した「サヌカイト」の原産地。緑の森に包まれたサヌカイトを探しながらの約2時間の里山歩き。

Walkのあちこちでこんなに広くサヌカイトが縄文の昔だけでなく、今も使われているのか・・・とびっくり。自分の手にとって「叩いて黒い破面を出してみたい」との願いがかなえられて本当に満足。

縄文時代にはおそらく「金山・城山」や五色台のふもとまで海が迫り、この金山は海からの格好の目印。この金山を目指して多くの縄文人がやってきたろう。

金山の神 金山神社から琴平金比羅宮が分かれていったという伝承も本当なのだろう。

金山周辺の民話の世界にもまた、興味津々。金山長者と城山長者そして城山長者の娘と結婚した「炭焼き友造」これが鉄の痕跡ではないかと今も思っています。

3. 鉄のモニュメント 長良川にかかる現存最古の近代吊橋 「美濃橋」

(重要文化財) 岐阜県美濃市 2007.9.10.

長良川の中流 北陸と東海を結ぶ交通の要衝として江戸～明治時代に隆盛を極めた美濃市。市街地は「うだつ」のあがる美しい町並 国の重要伝統的建築物群保存地区。市街地の西側 長良川 河畔は今も古い灯台が残る美濃「上有知」の湊。その河畔に当時の技術の粋を集めた日本最古の鉄製近代つり橋「美濃橋」(1915年大正5年完工)がかかっている。また、美濃の一つ手前の街「関」刃物の街私の興味を引いた「フェザーカミソリのミュージアム」
「縄文人も カミソリをつかっていた????」



現存最古の近代吊橋「美濃橋」
(重要文化財)



うだつの上がる街 「美濃」
重要伝統的建築物群保存地区



縄文人もカミソリをつかっていた????
フェザーミュージアム 関市

■ Country Walk 風来坊

1. 信州の縄文を訪ねる旅 2007. 9. 5. & 9. 6.

縄文人の故郷 信州。信州の縄文人は素晴らしい景観の山裾に自分たちの村をつくり、そこには 縄文の交易品 「信州・霧が峰の黒曜石」 そして 謎の「人体文・人面土器」がありました

信州 伊那谷・塩尻に縄文の「人体文・人面縄文土器」を訪ねまた、星糞峠に黒曜石原産地遺跡を訪ねました

1. 南アルプスを遠望し、天竜川を見下ろす高台に不思議な人体文縄文土器が出土した

伊那谷の北部 南箕輪村 久保上ノ平遺跡

2. 縄文中期研究の先駆けとなった縄文集落 平出縄文集落遺跡

3. 信州 長和町 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉞山「星糞峠」



不思議な人体文付罎付土器
塩尻市 久保上ノ平遺跡

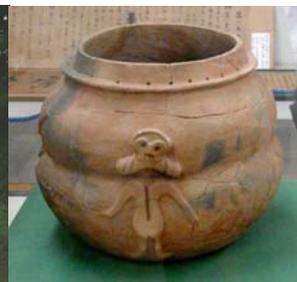
比叡の山の麓から大古の泉が湧く平出縄文集落

星糞峠 黒曜石原産地遺跡

○ 天竜川を眼下に見下ろし、南アルプス千丈・北岳を遠望す縄文中期研究の先駆けとなった縄文集落

伊那谷の北部 南箕輪村 久保上ノ平遺跡

天竜川を眼下に見下ろす段丘の上の村で 不思議な人体文の装飾が施された縄文土器が出た



南アルプスを遠望し、天竜川を見下ろす高台に不思議な人体文縄文土器が出土

○ 伊那谷・木曾谷と松本平・諏訪の十字路 塩尻に 日本で初めて 縄文の村の姿を明らかにした縄文集落がある

縄文中期研究の先駆けとなった縄文集落 平出縄文集落遺跡

そこは 北アルプスの連峰と美ヶ原の間に広がる広大な松本平を展望できる山裾で

大古の時代から こんこんと湧き出す清らかな泉と雀踊りを軒先にけた信州独特の民家群が出迎えてくれる。



雀踊りを軒先にけた信州独特の民家群とコンコンと湧く平出の泉が出迎えてくれる平出遺跡

○ 霧ヶ峰・和田峠の直ぐ隣の静かな山里 鷹山の「星糞峠」

静かな山の斜面に広がる雑木林の落ち葉のなかに 今もキラキラと黒曜石が輝いています



信州 長和町 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉱山「星糞峠」

2. 縄文のサヌカイト原産地 四国 坂出「金山」に「サヌカイト・讃岐石」を訪ねる 2007. 8. 6.



1. 坂出「金山」周辺のサヌカイト・讃岐石と「金山」にまつわる民話
 - 1.1. サヌカイトの生成とその特徴
 - 1.2. 四国 坂出 「金山・城山」周辺に伝わる民話
2. 城山と金山の鞍部 「奥池」周辺で 「サヌカイト」に出会う
3. 城山と金山の間から サヌカイトを探して 「金山」を越える
4. サヌカイトの原産地 縄文のサヌカイト鉱山 坂出の「金山」を歩いて



四国坂出の街の背後北側にぽっかりある小山「金山」。

縄文人達が道具や武器制作の材料として採取した「サヌカイト」の原産地。緑の森に包まれたサヌカイトを探しながらの約2時間の里山歩き。

Walk のあちこちで こんなに 広くサヌカイトが縄文の昔だけでなく 今も使われているのか・・・とびっくり。

自分の手にとって 「叩いて黒い破面を出してみたい」との願いがかなえられて 本当に満足。

縄文時代には おそらくは 「金山・城山」や五色台のふもとまで海が迫り、この金山は海からの格好の目印 この金山を目指して多くの縄文人がやってきたろう。





2007年 秋 神戸でも 今 山が色とりどりに色づいています 神戸 県庁前 相楽園で 2007. 11. 26.



奥出雲 雲南市 大志戸たたら遺跡現地説明会で 2007. 10. 13.

奥出雲 松江道の工事現場から たたら街道の名の通り 次々と製鉄遺跡が見つかる



萩焼 陶芸家 田中講平さんの新作 作陶展が山口の陶房で開かれたのを機会に秋の山口・美祿を訪ねました 2007. 11. 8.

あっという間に12月になりました。

「師走」という感じはまだピンと来ませんが、神戸の街では真っ赤に色づいた紅葉が風にまっけて素晴らしい晩秋の景色を呈しています。 やっぱり、1ヶ月ぐらい季節感がずれているようです。 いかがお過ごしでしょうか・・・

60を越えて 同窓会年齢というか・・・ 秋は同窓会シーズン。

こっちが まったく 忘れていることを思い起こしてくれたり、いつも 頭の片隅にあった友に思いがけなく出会えたり。 友が語る自分の生きざまと自分の記憶との違いにビックリしたり。 後戻りできない自分が 仲間の中にふつふつと浮かびあがって、舞い上がった時間をすごしました。 家内ともども 久しぶりの仲間との再会に歓喜するこの秋でした。

また まだ、夏の Country walk の整理がつかないのに、「素晴らしい景色 Walk が出来る」 「和鉄の道 たたら」などと聞くと 勝手に「今ゆかないと・・・ もう 時間がなくなる」と勝手な理屈を付けて この秋あちこちの Country Walk も楽しめました。 移り変わる秋 そして、色々な出会いを楽しんだ2ヶ月でした。

ホームページの更新をせねば・・・と思いながら あっという間に時間がたって、季節の便りだけは更新作業を。

そんなんで、季節の便りとして この秋出かけた Country walk の写真を整理掲載しただけで、ほかの更新は出来ていませんが、季節の便りとして 受け取りください。

相変わらずのホームページ 更新ですが、また ご意見・情報などお聞かせ下さい

本年も あと1ヶ月

クリスマスカードなど掲載のページをもう1回更新しようとおもっていますが、どうなるか・・・

ことしも 1年間 勝手なホームページにお付き合いいただき 有難うございました。

神戸では 12月9日から「ルミナリエ」が始まりますが、これが終わると 一気に「クリスマス」「師走」震災の翌年 真っ暗な夜空にパッと目の覚める輝きの灯が点いた時の感激は今も残っています。

そして 本当に 寒くて寒くて 物音もなく静まり返った街 1月の震災の記憶へとつながってゆきます。

一度 落ち着いて 「和鉄の道」も今までのものを整理し、今の視点で再構築しようとおもいながら なかなかできていません。

本年は やっと 鉄伝来から製造まで1000年近くかかった謎が自分なりに解けそうな糸口にたどりつけたこと また、「鉄」のすごさというか 鉄のパワーが戦にも平和・文化をももたらすこと いまだ変わらず。

今こそ 鉄の培ってきた技術の理念の奥深さが、軽薄短小の底の浅い時代をかえてくれるのでは・・・ と期待しています。

なにがあっても みな この 美しい地球に住む 地球人

暖冬とはいえ 風もはやりました 健康に御留意されますよう。

2007. 12. 1. 神戸にて Mutsu Nakanishi



ホームページ更新記事の概要

■ 和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪

1. 写真アルバム たら製鉄 砂鉄採取の地形が残る 西播磨 砥峰高原 2007. 10. 4.

初秋の西播磨の山郷 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原

西播磨 砥峰高原に残るたたら製鉄の痕跡。

低山の山中から カール状の地形が突然現れたのには本当にビックリ。人工のそれも 砂鉄の採取跡とは思えぬ自然に溶け込んだ景観のみごとさに見とれました。それも 周囲にまったく家がないままの状態で見られているのにも驚きでした。



この山に入る谷は かつて高級水圧鉄管と溶接技術開発の仕事で名を知る関西電力の揚水発電所大河内ダム湖。下の谷間の集落の畦には真っ赤なマンジュシャゲが周囲の山々の

緑とよくマッチして、秋を演出。登りきって目にした砥峰高原 これは信州アルプスで見た氷河が削り取ったカール地形そのもの そんななだらかなすり鉢状の草原に ちょっと早かったですが、ススキが一面を覆っていました。



ススキの大草原 初秋の砥峰 2007. 10. 4.



ススキの大草原 初秋の砥峰高原 鉄穴遺跡の砂と残土 2007. 10. 4.

■ Country Walk 風来坊

1. 2007年 秋 点描 10月 11月.

暑い暑いといいながら 天候の安定した10月 11月 声をかけられると うずうずの風来坊

Country Walk を楽しみました。あまり良い出来ではありませんが、各地の秋の表情 季節の便りです

● 初秋の西播磨の山郷 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原 2007. 10. 4.

● 奥出雲雲南市掛合町へ

たたら街道の名の通り 松江道の工事現場から 次々と製鉄遺跡が出土 2007. 10. 13.

● 久しぶりに夜の船で四国 松山へ 2007. 10. 26.-28.

● 山口県美祢市の夜明けの朝霧 2007. 11. 9.

● 神戸でも 今 紅葉の真っ最中 2007. 11. 26.



朝霧の山口県美祢市 2007. 11. 9.夜明け

美祢市の夜明けの朝霧



14世紀の製鉄炉 3号・4号製鉄炉

松江道の工事現場から 次々と製鉄遺跡が出土



瀬戸内海の夜明け



神戸の紅葉



西播磨大河内町の秋

■ 思いつくまま from Kobe 12月

この秋 感激したこと おもいつくまま

1. エジプト ツタンカーメンの鉄につながるかも??? たたらのルーツである塊錬鉄
2. 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激
3. 大阪の西の守り 四層の天守閣と3層櫓の素晴らしい尼崎城の姿(復元模型)



神戸で 思いつくまま 2007 From Kobe

■ [四季折々 Mutsu 神戸便り 2007 のpageへ](#)

■ [神戸で 思いつくまま 2007_](#)

神戸で 思いつくまま 2007 【6】 もくじ

From Kobe

1. 2007 年 1 月 きまなひとりごと 2007.1.25.
2. 「発掘された日本列島 2006」展 大阪 2007.1.17
3. 「縄文時代が教科書から消えつつある」にびっくり 2007.3.5.
4. 「兵庫」の鎖 - 「兵庫鎖」を調べていて- 2007.4.15.
兵庫鎖・「兵庫」のルーツとゴム輪など・知らないことが次々と
5. 「この春 風来坊で感じた地方の疲弊 2007.6.1.
地方格差・公共交通の崩壊がすすんでいます
そして 中央では絶対見えないほころびが・・・」
6. 「8 月 広島で感じたこと」 2007.8.25.
風化させてはならないのは 何 为什么呢
7. 「この夏であった不思議な石」 2007.8.25.
「カンカン石」と呼ばれるサヌカイトと蛇紋岩
8. この秋 感激したこと おもいつくまま 2007.12.1.
 1. エジプト ツタンカーメンの鉄につながるかも???
たたらへのルーツである塊錬鉄
 2. 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激
 3. 大阪の西の守り 四層の天守閣と3層櫓の素晴らしい尼崎城の姿(復元模型)

四季折々 Mutsu 思いつくまま 2007 from Kobe

1. 2007年1月 きままな ひとりごと 2007. 1. 25.

アメリカの医療について テレビをみていて その厳しさ・高額請求に本当にびっくりである。

ニューオーリンズの現実を見聞きして、アメリカの弱さを実際にはっきりみた記憶の後だけになおさらである。

病院に入ったら、全財産をはたかねばならぬし、救急車に乗るとタクシー並みの高料金。それぞれの処置にみな費用がかかる。現実の問題として 病気にもかかれない競争社会の厳しさにびっくり・・・・。

あまりにも 通常過ぎて知らなかった健康保険のありがたさ 身にしました。

だって このごろ 薬をもらうたびにもらう領収書 負担が増えたとはいえ、3割本人負担のありがたさ 全額負担に計算しなおして みる額の多さ こんなに気安く医療の世話になれないだろうと・・・・。

でも 日本でも 老人医療・高齢化社会の現実が次々とアメリカ型に推進されてゆくことへの不安は計り知れない。

最近話題の「ホワイトカラーエグゼプション」

(一定以上の年収のホワイトカラーの時間外賃金を管理職と同じ用ように払わない)

これを推進する人たちの言葉に日本の社会の病根を見たような気がして腹がたって 仕方なし。

この制度 財界のトップがTVで語って言うには

「アメリカではこの層に入った人は管理職の準備期間としてみんなこれを喜ぶ。それが日本では理解されない」と。

本当に そう思っているのだろうか・・・・

日本でこれを信じている人まずいない。 かならず裏がある。

だって この言葉の裏にすぐ「国際競争力・コスト低減」の言葉が見え隠れする。

少し前の「偽装請負・非正社員」の問題にしても、上記の話を語った財界トップの会社が、実に多くダブっている。

名前をかえ 形を変えて 今も進行中。

しゅしゅ 認めた後の言葉が 「みんな やっている。人材派遣会社が・・・・下請けが・・・・。」

「会社が生き残るための『国際競争力・コスト低減』のため」なのである。

そもそもよく使われる「会社が生き残るため」とは 何なのか

「働く人たちの幸福のため 仲間みんなの幸福のため」の言葉が返ってくるが、会社で働く人の生活を奪い、働く人の幸福を奪って「会社が生き残る」。 この目的が「働くひとたちの幸福のため」なのである。 どこかおかしい。

「働く人たち」の言葉の中身を理解せず、言葉だけが独り歩きする。

この「働く人たち」のことばもあいまい。「社会」全体の仲間を意識するのでなく、往々にして「狭い範囲の仲間」なのである。 自ら手を下すことのない劇場型演技の中で、目的と手段のすり替えがこれほどひどい時代はなく、それが 見えていることにも気づいていない・・・・。

国際競争力・IT社会を口にする人たちのアメリカ型の市場主義一辺倒の競争社会の厳しさと社会の不安定性は、もうアメリカを除く全世界で瓦解し始めているのに まだ それを推し進めるのか・・・・

アメリカでも気がついているというのに・・・・

ワーキングプアの広がり・いじめ・差別・教育・労働・品質等々耳にする施策を聞くと本当に腹が立つ。

そして 心地よい言葉に酔い、中身を理解せずに人のみを頼りにする。

まったく 中身のない言葉主義 その場さえつくるえば あとはどのようにでもなる主義の横行は目に余る。

以前はそれをフォローする思いとスタッフがいたのですが、今は それすら 忘れられている。

今は一丁上がりのせつな主義。 むしろ 「どこか なにか」を血祭りにあげて・・・・の思惑も見え隠れ。

IT・マスコミを使えば すぐなのである。 こんな IT・グローバル社会は真っ平である。

かつて、重厚長大の産業が社会を変えた時代・まだデジタルが進まぬアナログの時代があった。

今は時代遅れの悪の元凶というが、その社会の中にあつて「一億総中流」を作り上げた社会の奥行きを今一度見直してもよいのではないかと思っている。

「発展途上国にあわせて、その国の人件費コストに合わせて競争しようとする社会の仕組み」が今の偽装・品質・格差など社会矛盾の元凶ではないか ??? 発展途上国の生き方を認めたくて、その時代をすでに通り過ぎた社会の知恵を……

「百年を生き抜いたカンパニー」がある。

それらの会社に共通するのは時代・社会の変化に対応しながらも「支えとなる理念をみんなで 共有して 歩む」その姿勢の中にあつたという。

決して セツナではない時代・歴史の視点が今ほど必要な時代はないと思う。

そんなことを思い浮かべている時に 原子力・トラックから ストーブ・ガス湯沸器 そして 食品 と次々に明らかになる品質問題とその無責任なリーダーの群れ。 そもそも 品質管理のベースがあり、認定・認証システムがあるはずなのに……。

「ものづくり」にはこれらのシステムではできない業・知恵の世界があり、それを伝承してゆくシステムがあつた。それが会社を支える理念かもしれない。それらを「無駄」として切り捨ててきた「手をくだしたことのないリーダー」層。社会が高度化・ソフト化してゆく中で、どんどんこの種の層が増えている。

そのどんでんがえしが、今始まっているのか……

それを防ぐのが セスメント・認証制度なのであるが、それをも理解できないリーダー層が引っ張る社会。

また、認証した人たちは 今何を見据えているのだろうか……

きっちり アセスメントできないから、もうひとつ 別の組織を作るという。

いかにもせつな的で 必ず どちらも もっと弱くなる

今一度「百年を生き抜く」知恵を考えねば……

教育で教えねばならぬのは、手段・マニュアルではなく、知恵・知識とともに 経験・実践アプローチで養う理念・感度・洞察力などではないか……。 受験勉強だって 結局 理解の中身はそんなところだったように思う。刹那的な付け焼刃では 物事は進まない。

「生かされているすべてが一家族。 一人の痛みがみんなの痛み。
ともに生きる。 ひとりひとり自らが 手をかそう 」

本当に言うは易く、行うは難し。

頭の中には しっかり入れておかねばならないと思っている。

2007. 1. 25. By Mutsu Nakanishi

2 「発掘された日本列島 2006」展大阪 を見学 2007. 1. 17.

「古代の鉄から見た古代・日本の成立ち」 「鉄が日本にもたらしたもの」に惹かれています

日本だけでは解けない謎 朝鮮半島・大陸の鉄にも目が向いています

東京を皮切りに昨年6月 東京をスタートに 日本各地を回っていた文化庁主催「発掘された日本列島 2006」展がやっと終りの大阪にやってきて、堺市の弥生博物館で開催。また、それに合わせてその地域展「河内湖周辺に定着した渡来人-5 世紀の渡来人の足跡-」展が南河内 河南町 近つ飛鳥博物館で開催。

2006 年は甲斐 茅が岳山ろくで縄文の環状集落がそっくりそのまま出土した梅ノ木遺跡や大和王権が確立してゆく過程に新しい知見を入れた九州の古墳や古代政権の地方経営の先端を担ったと考えられる製鉄遺跡群などが次々と発掘調査され、新しい発見があいつぎました。また加速器年代測定法もその精度が随分論議され、弥生・縄文の時代感を変えてゆく役割を果たす武器となりだしています。

発行された新発見考古学速報に興味津々で見入り、遺跡現地にでかけ



たり、資料をおくってもらったり。

発掘された日本列島 2006」展 大阪の紹介新聞記事

興味津々で待ちかねた「発掘された日本列島 2006」展に古代史の仲間たちと1月17日に出かけました。

また、地域展の5世紀は日本で製鉄が始まる時で、朝鮮半島から数々の渡来人がやってきて、数々の技術が伝えられ、大和王権による日本統一の骨格が作られてゆく時であり、その中心が大和・河内。

この時代の鉄を知りたくて 通いましたが、まだ わからぬことだらけ。

教えてもらいたいこと数々。仲間もみんなそれぞれ自分のテーマ持っている人たちばかり、近つ飛鳥博物館・弥生博物館に丸一日 いろいろなことを教えてもらいました。



「発掘された日本列島 2006」展 2006 年主要発掘・発見概要 「発掘された日本列島 2006」新考古学速報より

また ゆっくりまとめますが、それにしても古代史と「鉄」とが結びついていることひしひしです。

「なんでも 鉄にむすびつけるなあ・・・」と笑われるのですが、その時代 時代が見えてきて面白いです。

「発掘された日本列島展」で知ったことなどまた機会を作ってまとめたいですが、知ったことなど簡単に記します。

1. 須恵器が焼かれた窯に「粉碎された鉄鉱石・砂鉄が入れられ、製鉄が始まった兆候はないか・・・」

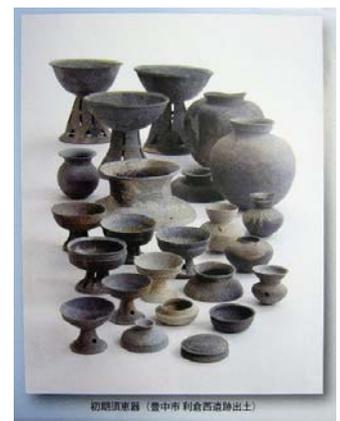
大陸・朝鮮半島から 渡来人たちによって、4・5世紀頃日本に伝来した須恵器。今までの土器に比べ 1000℃を超える高温で焼かれ、土の中に含まれる鉄が還元され、表面肌が黒くなっている須恵器。少なくとも 1000℃以上の高温が得られなければ、鉄精錬の反応がすすまず、製錬が行われない製鉄。

1000℃以上で焼かれる須恵器の窯は製鉄には魅力で、たたら製鉄が行われる前の段階で何らかの役割を果たしていたのではないかと考えていましたが・・・。

河内の須恵器の窯の発掘調査に何度も携わられた藤田近つ飛鳥副館長にそっくりそのまま質問をぶつけたのですが、「窯の中の土は本当に細かく調べているがそんな痕跡はまったくない」と。

プレタラとして 須恵器を焼いた穴窯の可能性はないようである。

砂鉄か細かい鉄鉱石粉が出てきてはいないか 出石や千葉で大事に保管されて見つかった砂鉄の粉の使い方では・・・とも考えていたのですが、はずれでした。



2. 河内はいち早く日本に馬が持ち込まれた地 馬は高句麗など朝鮮半島北方の文化

4世紀 日本には馬がいなかった。馬は5世紀頃朝鮮半島から日本に持ち込まれました。

そこから 日本の馬の文化が始まります。馬とともに 朝鮮半島北の高句麗・新羅の新しい鉄の文化が伝わったのでは・・・。

河内は渡来人の郷。背後に生駒の山並み 前方には河内湖。その湖と生駒山にはさまれた低い丘陵地の現在の四條畷一体は「牧」 馬が放牧されていたという。

4. 8世紀頃大和律令政権が地方経営の先端地で経営したと推測される製鉄遺跡が各地で発掘調査される

四国 今治 高橋小夜の谷2遺跡・新潟県柏崎 軽井川南製鉄遺跡・滋賀瀬田丘陵製鉄遺跡群
野路小野山遺跡・福島県原町金沢製鉄遺跡群に隣接する割田地区製鉄遺跡など



四国で初めて 製鉄遺跡が出土したと聞いて 今治にゆき、この高橋小夜の谷2遺跡の製鉄炉が畿内で改良モデル化された鉄アレイ型の製鉄炉であり、大和律令政権が地方経営の拠点地に築いた製鉄コンビナートだと聞きました。聞いたときには 多くの製鉄炉が立ち並ぶ北九州 元岡製鉄遺跡群 福島原町金沢製鉄遺跡群は知っていましたが、まだ 越の製鉄コンビナートを知らず。

「ここが??? 伊予国の製鉄コンビナート 今まで四国で製鉄炉が出土していなかったので 思い入れがつよすぎるのでは????本当だろうか???

「ここに大和王権の製鉄コンビナートがおかれるなら、日本海側の東北や東国の備えとして越に大製鉄コンビナートがあるはず」と。

そして 柏崎軽井川南製鉄遺跡を知って 資料を送ってもらって びっくり。

柏崎にも8世紀から12世紀にかけて35もの製鉄遺跡があり、8世紀から11世紀にかけて20を超える製鉄炉が出土しています。そして 鉄アレイ型から足踏み鞆のある片アレイ型に進化して継続的に大量の鉄が生産。

北の蝦夷 西の大陸のみならず、日本海側の東日本・南九州・瀬戸内の押さえなどのため、必要とされる大量の鉄器を生産する大製鉄コンビナートが形成されていたことが以前よりもまして クリアーになってきました。

解決していない古代の鉄の歴史がびっしりです。また 出かけるところがまたふえました。

今年 もう少し「鉄から見た日本」が見えてくれば・・・と期待しています。

今治 高橋小夜の谷2製鉄遺跡で出合った愛媛大学村上先生は「製鉄遺跡は昔の生産設備の産業廃棄物」といわれましたが、いろんな製鉄遺跡が発見・発掘調査されるのはうれしいのですが、調査が終わり、記録・報告書ができると「産業廃棄物」として破壊されてしまうのが大半で、製鉄炉数基など良くてごく一部に限って保存されるのみ。

したがって、発掘調査されたときによく見ておかないと周囲の環境も含め、遺跡があったところそのものが、激変してしまいます。早く暖かくなったら 出かけようと又うずうずです。

3. 「縄文時代が教科書から消えつつある」にびっくり 2007. 3. 7.

大阪で開かれた青森三内丸山縄文の会「大阪縄文塾」で、小学校の社会科の教科書から 縄文時代を教える記述がどんどん減って いまやほとんど記述がなくなっていると聞きました。もうびっくりです。



学習指導要領での歴史学習に関する規定では、最初の部分が「農耕の始まり、古墳について調べ、大和朝廷による国土統一の様子が分かること」となっていて、農耕以前の時代の旧石器時代や縄文時代を扱わずともよいと解釈されつつあるらしいのです。

日本人のルーツは弥生人 縄文人は異邦人と思っている人は特に関西では多いし、何か最大公約以外の少数は切り捨て・切捨て簡略にしてゆく最近の効率化重視の世相そのものを感じられます。

グローバリゼーション 市場万能のデジタル・効率主義が医療を荒廃させ、深刻な労働・社会問題をもたらしつつあると聞いたばかり。教育の局面にもすでにそんな方向が深く入り込んでいることにびっくりです。

「結果は歴史が語ってくれる」とよくいいますが、歴史とは幾世代もが蓄積してきた経験の賜物 その判断が極めて先を予告すること先を判断する指針を与えてくれることを知りながら、今 縄文を消し去ることの重さを考えないのか・・・と憂鬱になってきます。



「世界文明にも匹敵する

日本が世界に誇る木の文化 縄文」

「ストーンサークルや環状集落

そして 縄文の文化

日本人の心を映す縄文」

「穢れ・戦を知らなかった縄文」

「自然と強制してきた森の文化 縄文」等々

日本人のルーツと強く結びついている縄文時代を今の時代の都合でそっくり抜くことに不安を感じます。

今 三内丸山遺跡をはじめ数々の縄文遺跡が縄文のすばらしさと日本人がはぐくんできた文化・社会などとの関係を解き明かしつつある今。そして また、地球環境・自然との共存が本当に必要になってきた今 縄文の知恵に学ばねばならぬ時代に本当に無謀としか言いようがない。

三内丸山縄文遺跡や青森の縄文の名品の数々を見た後だけに余計にさびしくなりました。

グローバリズムを口にする人たちの市場万能主義は本当に人を幸福にするとは思えない。

調和と共生の人間主義がないと・・・。

そして、それを可能とする「人間主義」「理念・倫理感」の醸成が今一番日本にかけているところと感ずります。

せつな的な対応に危機感をますます強くします。

縄文の名品を見た後だけになおさらびっくりしました。

これらの名品をゆっくり見ていると 何か違った世界が見えてくると思いませんか・・・

2007. 2. 16. 夜

大阪縄文塾のあと 大阪の街を歩きながら

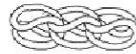
By Mutsu Nakanishi

4. 「兵庫」の鎖 -「兵庫鎖」を調べていて-

2007. 3. 20.

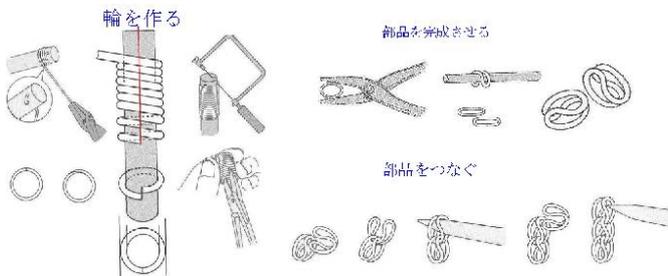
「兵庫鎖」・「兵庫」のルーツとゴム輪にも・・・知らないことが次々と

兵 庫 鎖



先日 姫路の衣川良介氏から送っていただいた「夢通信」で、5-6世紀の朝鮮半島で盛んに製作され、日本の古墳の副葬品として出土する主に金製の耳飾りに使われている鎖のつなぎ方「ひしゃげてコの字型にした金輪に次の金輪を通してゆく鎖のつなぎ方」に「兵庫鎖」という名称があることを教えていただきました。

以前「黄金の国 新羅展」や「大伽耶文化展」などの展覧会で耳飾りに繋がれたチェーンの素晴らしさやそのチェーンに繋がれる金輪の端面を口付け接合で精密にふたをされていることそして鎖の一つ一つの輪が実に精工で同じサイズにつながれて実に見事な鎖になっているのを見て、その接合や金属細工の技術の見事さにびっくりして見入ったことなど思い出しました。



鎖の輪の製作方法と 兵庫鎖のつなぎ方
衣川良介氏「夢通信」兵庫鎖を作るより

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/yume/06121.pdf>



5-6世紀 朝鮮半島 伽耶や新羅の耳飾りなどに盛んに使われた兵庫鎖 「新羅展」図録より
5-6世紀 日本に朝鮮半島からもたらされた兵庫鎖のルーツ

「鎖」って こんな風につくるのか・・・と。

判ってみれば「なるほど」の実に見事な物づくりの技。

子どもの頃にゴムとび遊びのゴムひもやゴム動力船・飛行機「動力ひも」として、

輪ゴムに輪ゴムを「コの字」状に結び合わせた紐を作りましたが、まさにこれ。

(ゴムひもを作るのには もう一種 輪ゴムに輪ゴムを結んでゆく方法もありました。)

このゴム跳びに使うゴムひも 僕ら 関西では輪ゴムで作るものと思っていましたが、関東ではパンツの紐に通す白いゴムひもを使うのが主で 輪ゴムで作ることなどなかったという。今は もう そんな遊びもなくなったのでしょうか、これにもびっくりでした。輪ゴムを生産するメーカーが大阪で、ほかのところでは、大阪ほど簡単に輪ゴムが簡単に手に入らなかったのかも知れません。 そう思うと 今は何でもセロテープで「チョッ」と止めますが、昔は何でもゴム輪がかかっていて、すぐ輪ゴムがたまったものでしたね。

この鎖のつなぎ方に「兵庫鎖」などという名前があるとはまったく知りませんでした。古代からあるつなぎ方が連綿と続いてきたもので、5世紀ごろ 朝鮮半島から伝来した素晴らしい技術。

このつなぎ方の起源を調べるとエジプトではすでに 4000 年前の金製品にこのつなぎ方があり、それが中国・朝鮮半島を経て日本に伝わった。

日本では 古代の耳飾りなどの金鎖のほか 馬の轡・鐙の引手の鉄鎖などが伝わってきて、その後 鎌倉時代以降には太刀の装飾飾りの鎖に非常によく使われた細工で「兵庫鎖太刀」が沢山製作されている。

日本に馬が伝わったのが、5 世紀といわれており、馬を日本にもたらした渡来人がこの鎖の技術をいっしょに持ち込んだのかもしれない。古くから新羅・朝鮮半島にすごい金属加工技術があると 前々から強い印象がありました。



鉄鎖の一例

古代の耳飾りや刀の装飾飾りに使われた兵庫鎖

■「兵庫鎖」の「兵庫」とは・・・

3 月 神戸の埋蔵文化センターに行くと 古墳時代の舞子古墳群 毘沙門 1 号墳から出土した鉄製の兵庫鎖が展示されているのを見て、「神戸と関係するの????」と。「神戸三宮近くの市街地幾田川の川岸に古代 7 世紀初頭から続く飛鳥・奈良時代の鍛冶集落跡「二宮製鉄遺跡」があり、製作された数多くの武器や農耕具が出土している。」

神戸の市街地に飛鳥・奈良時代の鍛冶工房集落 「二宮遺跡」を訪ねて

<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/iron3/nmmykb01.htm>

この神戸の鍛冶工房と「兵庫鎖の兵庫」つながれば 神戸が楽しくなる」と勝手に考えて 埋蔵文化センタで聞いたり、インターネット調べたり。結果的には 僕の推理は否定されたのですが、「兵庫」の色々なことが判って、こだわって調べてみることの面白さを知りました。



毘沙門 1 号墳出土 鉄製の兵庫鎖
神戸市埋蔵文化財センターで

どこがどうつながっているのか
いまだによくわからない

1. 兵庫鎖の名称「兵庫」のルーツ

5 世紀朝鮮半島から もたらされた兵庫鎖の技術が古代大和王権の武器を一手に生産・管理を職としていた「兵部寮」に伝わったことから、「兵庫鎖」の名前が起る。古代 律令政治の根幹として中央官制が整備されていったが、701 年制定された大宝律令で集大成され、さらに 10 世紀の延喜式に引き継がれてゆく。中央官制組織は、大宝律令制定直後は二官八省一台五衛府に整備された。その後 兵部省の中に造兵司が設けられ、内兵庫が置かれる。武器の生産と管理する内兵庫は 808 年に改編して左右兵部寮として新設、896 年には左右兵部寮と造兵司・鼓吹司を併合して左右を統合して一本化された大寮「兵部寮」が新設される。したがって、残念ながら 神戸と関係して 「兵庫鎖」の名が起こったわけではない。

2. 兵庫県の名に見られる「兵庫」のルーツ

「兵庫鎖」の名前は大和王権の武器を生産管理する兵部寮から この鎖の技術が広く伝わったことから起こったようである。ならば 何故 この神戸周辺を「兵庫県」というのだろうか……

それは、天智天皇の時代に唐や新羅との戦いに備えるため全国に武器庫が建設され、特に摂津・播磨の国境 須磨の関を守るため、現在の神戸市兵庫区に兵器庫「兵庫」を置いたのが地名になったと考えられている。



摂津・播磨の国境 旗振山から 須磨海岸を望む



ちょうどすぐ横を明かし大橋がわたる幕末の舞子砲台跡 2007. 3. 10.

この対岸 淡路 松帆の浦にも砲台があり、また 稲妻型の砲台の護岸は五稜郭と同じ設計

「兵庫鎖」の話を教えていただいて 昔の記憶をたどりながら 何やかや引っ張り出したり、インターネット調べたり、調べてみると面白い話がぞくぞく。

やっぱり、ものづくりの技術は奥が深いというか 技術伝承がそのものだけにとどまらず、広がってゆくこと感じました。最近 あまりにも 薄っぺらで うのみにしてしまうことが多い時代。

落ち着いて 考えてみたり、そのフィールドに 直接 出かけてみるのも面白い。

今回 神戸市埋蔵文化センターで鉄製の兵庫鎖の展示を発見したのが、ラッキーでした。

2007. 3. 20. 神戸にて Mutsu Nakanishi

【参考】

兵庫の名の由来

兵庫県の「兵庫」は、兵器を格納する倉庫である「兵庫(つわものぐら)」にちなんでいます。

645年	大化の改新の際、播磨国境の須磨関を守るため、現在の神戸市兵庫区周辺に兵器庫「兵庫」が作られる。
1105年	土地寄進状に「兵庫庄」が初めて使われる。
鎌倉時代	奈良時代から「大輪田泊(おおわだのとまり)」と呼ばれていた兵庫庄の港は、鎌倉時代になると「兵庫の津(ひょうごのつ)」と呼ばれるようになる。
明治元年1月 (1868年)	アメリカなどと貿易を行う開港場として兵庫の津が指定され、周辺の旧幕府領を管轄する兵庫鎮台が置かれる。その10日後に兵庫裁判所と改称される。
明治元年 5月23日	兵庫裁判所が廃止され、県庁が置かれる。そこから「兵庫県」という名称が誕生。

[国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所「ひょうご道」](http://www.hyogo.kkr.mlit.go.jp/kankou/michi/yurai/index.html)より

<http://www.hyogo.kkr.mlit.go.jp/kankou/michi/yurai/index.html>

5. この春 風来坊で感じた地方の疲弊

2007. 6. 1.

地方格差・公共交通の崩壊がすすんでいます そして 中央では絶対見えないほころびが・・・

5月の連休明け 久しぶりに 夜行バスに乗って新潟 柏崎・弥彦山へいってきました。

何年ぶりになるか、随分座席数が減り、快適でした。でも 地方が疲弊している。

中央の犠牲に地方がなり、中央では見えないほころびが、随所に見えている。

今頃 なにを言ってるんだと言われそうですが・・・ こんなにすごく感じたのは初めて。

車では絶対わからない テクテク歩きの風来坊だからこそ 見えたのでしょう。

でも 地方へ行くと 本当に親切を肌で感じるぬくもり。

まだまだ 見直しの舵がきれるのでは・・・

またまた 気楽な風来坊のたわごとです

鉄道は新幹線・特急を使わないと路線がズタズタで、だめになりましたね。新潟からの帰りに、午後 糸魚川に立ち寄って、神戸まで 鈍行で・・・とトライしましたが、またも 福井で特急に乗らないと神戸に帰りつかず。また、今回 新潟長岡・柏崎周辺に行くと 電車・バスの本数 接続など、市内や隣町にも行けないといった事が随所に。

以前は何とか車を使わずとも行けたところが、もう車でないと行けなくなっています。

バス・鉄道は公共機関の役割をはたせず、東京や大阪など幾つかの大都市のためにのみ便利が良くなって 地方がこんなに不便になっているのか・・・とあからさまに見えてきてビックリです。

一方 便利になった大阪でも 中心を抜けて 郊外にでるとまた これも同じ。早朝 福知山線篠山で起こったダイヤの乱れが 何で 午後 しかも遠く離れた桜井線や奈良線の遅れになるのか・・・

一旦 混乱が起こると福知山・学研都市線をつなぐ大阪東西線では中心部の大阪を抜けてしまうと、端の方では、中心部の指令にしたがって、到着時間や電車の先行がくるくる変わり、運転する方も もう やつられるか・・・」なのでしょう 行き先表示板も変更せずそのまま走るので 余計に混乱・・・。 まあ 人が少ないのでええようなものの・・・。

運転管理・安全管理では 首を傾げたくなる有様。

大阪や東京のど真ん中では絶対に見えない光景が、末端に行くと見えてくる。

なんぼ 偉い人が 中央で報告を聞いたり、外部から人招いても 自らが変わらないとだめだと思えます。

自分はずかしく、ほかに変われ 変われ。これが 今の日本の企業の構図なのでしょう。

昔は日本的といえども トップ交代の責任が問われ、新体制の中での話だったのですが、今は 「きっちり 対応が進むのを見届けないと無責任」との屁理屈が通る。

昔は政治家の言い分だったのですが、今や地方と中央 企業・役人にまで蔓延・・・ ほんまにやられてるか・・・ である。まあ JR 西日本の中身もこんなとこです。

やっぱり筋の通った理念・信念のぶつかり合い そんな取組みが本当に待たれる時代になりました。

今がいいのは前代に蓄積された膨大な遺産があるから。次はもう なにもなし。東京サバクの時代か・・・

先日 1990 年代「日本の企業が年功序列・従業員重視型日本的経営から株主重視のグローバル・国際市場絶対主義経営に舵をきる」過程での経営論争が経団連の経営者間で戦わされたことが朝日新聞にレビューされていました。

鉄鋼経営の I 氏が経営の基本として 従業員・社会・国家への貢献・責任を論じ、金融・流通の M 氏が株主絶対主義を論じたと・・・。

その中で グローバル・株主至上主義経営の中で 社会・国家への貢献・責任は「政治家が考えること。経営者・企業が考える必要はない」と論破されたと報じていました。

そして、その後 日本は大きくグローバル化経営に舵を切ったのであるが、その結果が今である。

どちらがいいかは別にして 急ハンドルのつけは大きい。

社会のひずみ・物づくりの品質・人のつながり みな ずたずたで、そのしっぺ返しが始まっている。

多数を頼んだ至上主義。言葉の羅列・刹那主義の代表みたいなもので、まったくつながり・連鎖のない社会が現実である。むかしも建前と本音はありましたが、天井知らずでなかった。

本当に 身の置き所がなくなってきたなあ……と。

聖書に「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味がつけられよう。」
また、「アブラハムの訴えを聞きいれた神は『その10人のためにわたしは滅ぼさない』と約束する。

(10人の義人が圧倒的多数の罪人の身代わりとして立つ)

という言葉があるのを教えてもらいました。

グローバル・経営至上主義とはいいながら、欧米にはこの精神・理念が常に歯止めとして働いている。

「自らが 考える」 この姿勢の欠如が歯止めのない社会を生み出していることに早く気づくべきだと思う。

スピード経営・グローバル経営が社会の錦の御旗。でも中身をみればそんな無理せんでも 別の道があるのではないか……

ふっと そんなことを考えてみるのは邪道なのだろうか……

そんな 目の向け方する人たちが 生まれないのだろうか……

それが 教育の本質だと思うのですが……

なにか さびしくなりますが、日本的グローバル・市場至上主義の破綻が中央では見えない。

つくづくそんな感じを 今年の春 風来坊のきままな旅をしていて 感じています。。

2007. 6. 1. またまたのジェットコースタ事故に寄せて

Mutsu Nakanishi

6. 8月 広島で感じたこと

風化させてはならないのは 何なのでしょう 2007. 8. 5.



暑いアツイ 8月5・6日 今年も クリスチャンの広島のパラ行進に参加してきました。

核廃絶・平和への願い・不戦 と 何で広島やねん とよく言われますが、 やっぱり 行くことが意思表示の一つ。

「風化させてはならない」とは 多くの人が語るのですが、

「風化させてはならないのは何なの?? それで なにになるの????」に答えなし。

それを体現するためかなあ…… 自分もも変われそうで また 何かがかわりそうで……

でも 今年ほど 風向きがかわった と思えることはついぞなし。

「核廃絶 戦争反対 それで世の中変わるのか」「核には核を」「非戦では国際協力できない」等々と浴びせ続けられた数々の批判に「平和憲法 かけがえのない命を守ろう 核廃絶の声が 現実性のある声として実感された初めての年に感じました。

被爆62年 被爆体験者 戦争体験者は「今しか 語るべきがない。

自分の体験を次の世代に伝えたい。 風化させてはならない。」という。

これは なんだろう……と。



最近 若い時とちがって 自分の視点が変わってきたなあ と感じます。

「会社 都会 そして IT 社会 集団」 そんな視点から、若いときには考え及びもしなかった「かけがえのない命」「次世代の子供たち」が自分の中心にあるように思う。

それが「人類が生き延びて 世代をつないでゆく 知恵」ではないかと思っている。

解っていても 人に理解してもらえる話 自信もなかったのですが、昨秋 ノーベル平和賞をもらった宗教人の人たちの話を聞き、その行動原理が純粋にこれだと知ったこともあって、自分でも意識して これを原点に思考を始めている。「平和を祈る そして 一歩前進」一人のこの小さな輪が渦となって世界を動かして行けると。

国家・集団の視点が いまや世界や地球の視点に置き換わっていると。

いやおうなしに この世界・地球を考えの根拠に 自分の現実を見る感性を最優先にしなければいけないと感じている。

今年の参議院戦の潮流の中にそんなことが 垣間見えたように思う。

「平和憲法を守る ・不戦があったから、日本の豊かな社会が育まれた」などと言うと、何か 好奇の眼にさらされて「平和憲法なんて・・・」「不戦では国際貢献もできない」と反論をくい、現実論ではないと叩かれていましたが、潮流が変わったと感じられるようになりました。

大国の利益優先が 世界で戦を撒き散らし、2割の人の繁栄の中で 8割の人が貧困にあえいでいる
繁栄した国が今貧困から立ち上がる人たちの国の手法を取り込んで上前はねて どないすんねん
中国なしでは食料・日用品は調達できず。 不買をやったって どうにもならない現実
自分たちの豊かさの中に いつ自分に降りかかるかもしれない現実を 見なければ・・・・・・
他人事で他人にゆだねていたのが寄りかかっていけなくなった現実には
はっと 自分で声をあげねばならなくなってきた。 グローバル化の前に国を超えてどんどん世界が見える。
声高に多数を声高に叫んでいても、作られた多数が 見えてくる現実
やっと 自分の感性と判断が本当に大事な時代になってきました。

今年の広島でこんな話も聞きました。

我々一握りの豊かさの中から生まれた地球環境変化が絶滅の危機を生み出している。

「豊かな暮らしの中で、ちょっと 平和を !!」 そんな現実を抜け出して

「全力を傾けて、一歩一歩 平和の実現に尽くそう」と。



一番 風化させてはならないのは そんな「平和への思い・平和への願い」だと感じています。

人類が生き延びてゆく 武器は「希求の平和」核廃絶への知恵を働かさないとその先は絶滅である。

本当に 今一人から こつこつやれば 大きな渦ができる時代へ潮目が変わる節目かもしれない。

馬鹿騒ぎの渦から 自分を取りもどさねば・・・・・・。

若者たちの群れの中にも それを期待したい。

テレビのニュースは 伝える人たちの益々激しくなるおごりの表情と芸能人化 スポーツ番組は芸能ショー
やっている方も 中継している方も とてもスポーツを愛しているとは思えない。むしろ過剰なアジテーター。

淡々とニュースを伝える平板と批判されたNHKのニュースに また BSのメジャーリーグ放送の静かな語り口・解説にすがすがしさと新しい顔を見る。最近そんな風に見えて仕方がない。

食品の品質問題 安全と事故 平和と戦 そんな幾多の問題の過程で平然と言われている「風化させてはならない」と。

でも「風化させては ならないのは なんですか」

この答えは ほとんど無視され、好きなように使われている。

本当に もう 踊らされたいぞ・・・・。「かけがえのない 一人ひとりの命 それをつなぎたい」

「縄文がえり」といわれても そんな感性と判断を磨きたい。

7. この夏であった不思議な石 「カンカン石」と呼ばれるサヌカイトと蛇紋岩

1. 「カンカン石」と呼ばれるサヌカイト



金山周辺で採取したサヌカイト



坂出駅の北 縄文のサヌカイトの原産地 坂出の金山



右の写真は山の南 国道11号線側からの金山

縄文の各種道具・武器の主要加工材料で、縄文人の主要交易品のひとつ「サヌカイト」。

カンカン石と呼ばれ、叩くと「カンカン」と金属音がする。最近では石琴など楽器にも加工されています。四国坂出の金山・五色台周辺が大阪河内の二上山と並ぶ縄文のサヌカイト産山と聞いて、特に「金山」の名前に惹かれて 坂出の金山に行って、サヌカイトを拾って帰りました。

金槌で岩を叩くと カーンと金属音とともにスパッと岩が割れて 真っ黒で平坦な破面。おまけにリバーパターン状の破面。これはもう金属に近いと……。

また、この金山全体の持ち主で、山中でサヌカイト工房を開いておられる前田さん宅で大きなサヌカイト板を叩かしてもらった まさにお寺の鐘。感激でした。

真偽のほどは明らかではありませんが、この山中にある古い金山明神を守る金山神社の祭神は金山彦 また 山の麓近くの集落に鋳物師屋の名がある。地元の人みんな「鉄の話などないよ」といわれるのですが、昔は鉄も出たのでは……と。

坂出駅の直ぐ南東の線路沿いの現在は個人所有の小さな山ですが、ここで採取されたサヌカイトが縄文人の包丁などの道具となった。



金山 ゆうの里で

叩かせてもらった サヌカイト製の楽器 まるでお寺の鐘



坂出駅のすぐ北側 金山から見た坂出と高松の境 五色台 ここでもサヌカイトが出る



四国坂出の金山 縄文のサヌカイト原産地周辺の山中のサヌカイト

ここでは サヌカイトが溝の土手や傾斜地の石垣などにサヌカイトが使われている

2 炭素を固定する蛇紋岩 炭酸ガスを吸収して地球温暖化対策の切り札になるかも ???



紀川が麓を流れる 紀州富士「龍門山」

この山は鉄やマグネシウムなどを多量に含む不思議な石 蛇紋岩の山



和歌山県の紀川沿いにそびえる紀州富士「龍門山」は蛇紋岩の巨岩がゴロゴロ頂上部にある緑の山。

蛇紋岩は地中で固まったマンツルの成分に近いカンラン岩が地殻変動で細かいひび割れを発生してそのひびに熱水が入り込んで、鉱物質を変化させ、美しい蛇柄文様と光沢を持つので、化粧板として人気がある。

この生成のルーツが示すようにこの石には数多くの鉱物質を含み、蛇紋岩に変質する過程であまった鉄やマグネなどの鉱物質を割れ目に残す。龍門山の蛇紋岩のごとく、鉄分の析出した蛇紋岩は磁石に引っ付いたり、磁石になっているものもある。

蛇紋岩の網目の割れ目構造

この蛇紋岩の変質作用を調べていて、地中深くにあるこの蛇紋岩帯に炭酸ガスを吹き込んで固定化して地中に貯蔵するシステムが地球温暖化対策の一つとして検討されているという。この作用が蛇紋岩化作用と呼ばれる蛇紋岩変質作用の一つだそうだ。化石燃料はもう軽減できても使わねば生きられない現代社会 地球温暖化対策のためには大量の炭酸ガスの固定化とその膨大な量の定化したもの貯蔵法の開発が急務。

先端技術と言うと ついつい 宇宙・ロボット・エレクトロニクス・通信ということになりますが、材料の世界でも地道な研究が進んでいることを知りました。海底に膨大に堆積するハイドライトの活用も同じだそうだ。

そういえば 昔 石油・天然ガスの掘削にインジェクションと称して大量の炭酸ガスふきこんでいたなあ・・・と。これも一つの手段。鉄鋼業はその生産に大量の炭酸ガスの排出をしているが、材料屋の技術が生きるかも知れない。後進国の炭酸ガスの排出権の売買に奔走するだけでなく、急務な地球温暖化に歯止めが、早くかかれればいいなあ・・・と。 思いもよらぬ材料技術を知りました。



紀川が麓を悠然と流れる粉河の「龍門山」

頂上周辺には磁石に引っつく巨岩 明神岩 そして、コンパスの狂う磁石岩
不思議な魅力を秘めた蛇紋岩 そんな蛇紋岩が先端技術として見直されている

8. この秋 感激したこと おもいつくまま 2007. 12. 1.

1. エジプト ツタンカーメンの鉄につながるかも??? たたらへのルーツである塊錬鉄
2. 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激
3. 大阪の西の守り 四層の天守閣と3層櫓の素晴らしい尼崎城の姿(復元模型)

1. エジプト ツタンカーメンの鉄につながるかも??? たたらへのルーツである塊錬鉄

愛媛大学で「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探る」シンポに参加して

中国の古代初期に「金」より「鉄」に価値があった時代があり、その時代の鉄はたたらへのルーツである塊錬鉄であると聞きました。 しかも そのルーツはユーラシアの西端 トルコやエジプト ツタンカーメン王の墓からも同じような使われ方をした貴重な鉄が見つまっているという。

たたら製鉄で製造される塊錬鉄 中国・朝鮮半島にその技術ルーツがあるはずなのにたたら製鉄が始まった頃の中国・朝鮮半島ではそんな製鉄法が見つからず、謎であった。しかし、溶鉄法による鉄の大量生産・大量使用が始まる「秦」の前の時代に塊錬鉄が「貴重な鉄」として使われていた時代があったという。

日本に鉄が伝来してから 約千年近くかかるまで、製鉄が始まらず、大陸では溶鉄法による製鉄法が盛んに行われている時代に製造が極めて難しい塊錬鉄製造法が製鉄法として始まった。

この謎を解く鍵 塊錬鉄が中国の古い時代のごく一時期に見つかるという。

しかも、同じ使われ方がユーラシアの東西端であるという。

たたら製鉄のルーツの謎が解けるかもしれないと、報告されるスライドを食い入るように眺めました。



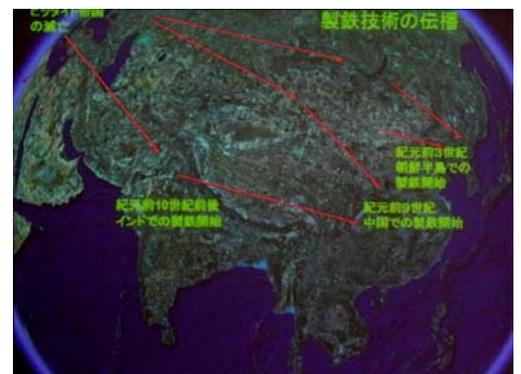
愛媛大学で「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探る」シンポ 2007. 10. 27. 愛媛大学で

「中国における鉄の起源と波及」と題して 西からの鉄の伝播に中国西南地域・四川の重要性を報告される村上千通教授

ツタンカーメンのエジプトやトルコでは 金製の多くの剣の中で一番華やかな「金」飾り柄に鉄の刀身が付いたものが一本だけ一緒にまじっている。中国でも約2800年前の西周・戦国時代(鉄の国「秦」の前) 青銅製の柄に鉄製の刀身がつけられたものが、1本混じってみつかる。しかも これが日本の古代鉄「たたら」と同じ直接製鉄で作られた塊錬鉄製だという。



ユーラシア代理区の東西端で見つかった「金」よりも貴重な「鉄」
これが中国伝来の鉄のルーツ ???



東アジアへの鉄技術の伝播ルート

北のシルクロード・黄河ルートのほか

南のインド・長江ルートがあったのでは???

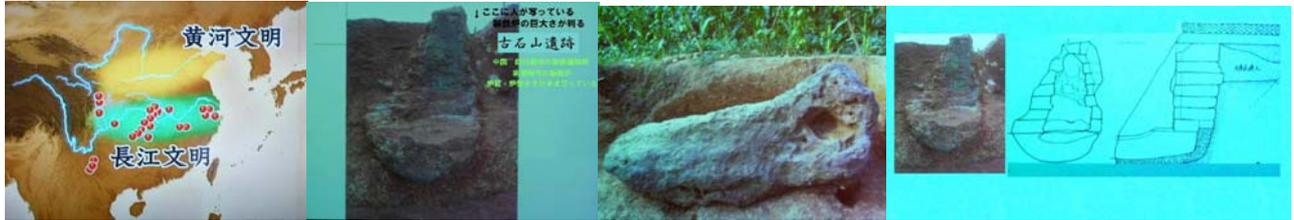
「秦の時代以降になると 中国は溶鉄法による銑鉄・鑄鉄をつくり、再度脱炭精練して「鋼」を作る溶融製銑・製鋼法で、中国・朝鮮半島の製鉄遺跡からは塊鍊鉄の製鉄遺構は見つかっていない。

「秦」以前の塊鍊鉄が何処で どんな風に作られたのか・・・

その伝来ルートの確証はなく、漠然とシルクロード経由で伝来したと信じられてきたが、これも謎のままであつた。

四川盆地の古代製鉄遺跡の共同調査や最近の中国での調査・資料などを踏まえ、西南中国の鉄のルーツをたどってゆくと揚子江から重慶 四川盆地から 雲南 ミヤンマからインドへの道がみえてくるという。

そして、四川盆地での今回の発掘調査で、前漢以前の時代につながる製鉄遺跡が見つかったことから、「秦」に征服される前の時代から 中国の製鉄の中心の一つであった可能性が強いことが垣間見えてくる。



四川盆地から見つかった前漢時代の製鉄炉や大鉄塊の一例

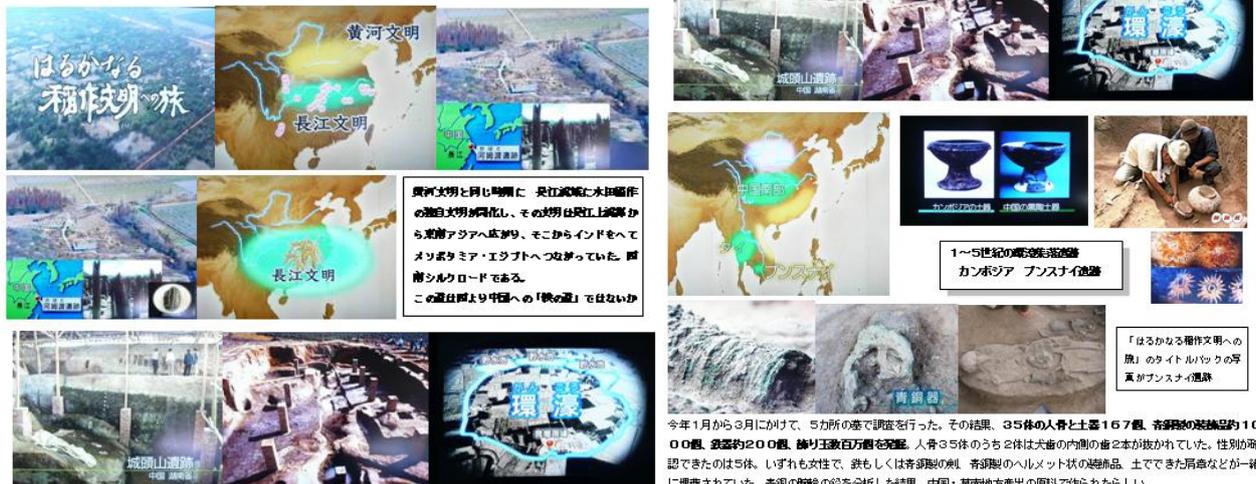
初めて 実物を目にする四川 古代中国の製鉄炉 本当にそんなに大きな製鉄炉をやつっていたのだろうか・・・とこれも半信半疑でしたが、製鉄炉がそっくり立ったままで巨大な姿を現したのには 本当にビックリしました。

このシンポジウムの調査報告を聞いて、黄河流域から天山山脈を抜けてゆくシルクロードとは別に「史記」にその可能性が記述されている揚子江・西南シルクロードが存在し、塊鍊鉄の技術は中国へ古い時代にこのルートでつたわったのではないか???? の期待。このルートは弥生の水田耕作 稲の伝播の道にかさなるなあ・・・と思っていた矢先、NHK「はるかかなる稲作文明の旅」が放送され、まさにこのルート上にあるカンボジア アンコールワットの西北 60km のところで 1～5世紀の大規模な環濠に囲まれた集落が発掘され、しかも多数の墓から 鉄器が多数出てきたという。

日本の弥生とほぼ同じ時代に そっくりそのまま 水田稲作の集落と鉄が出現したと伝えている。

この鉄は塊鍊鉄でないか・・・とその調査結果に興味津々である。

NHK「はるかかなる稲作文明の旅」 2007年11月23日より



NHK「はるかかなる稲作文明の旅」

揚子江・西南シルクロードの上 カンボジアで大規模な環濠に囲まれた集落発掘を伝える

シルクロードといえど ユーラシア大陸の東西を結ぶ文明 文化の道として 知らない人はいないが、それ以前に もう一本 ユーラシア大陸の東西を結ぶ文明 「鉄の道・水田稲作伝播の道」があった。

そう考えるとうれしいかぎりです。

愛媛大学で「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探る」シンポでは、今まであまり知られていなかった揚子江流域の四川盆地の製鉄遺跡の発掘調査結果や黄河文明に勝るとも劣らない長江文明そしてそれに関わる金属器・鉄器の関係

史記など中国の資料が伝える中国古代鉄など 今まで知らなかった中国の古代製鉄についての数々の興味ある報告が日中の共同研究成果として報告された。

知らないことばかりで、本当に貴重な一日。

日本のたたら製鉄を考える上でも きわめて有益な事実ばかり。まだ きっちり租借できていませんが、いただいた資料や書き写しメモなど読み返しながらか、自分なりに 纏めてみようと思っています。

2 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激

日本の月面探査衛星「かぐや」から撮影した「三日月のかけた地球」の写真や雲の渦とともに青みを帯びた地球の写真が広く TV や新聞で報道された。

今まで見せられてきた衛星写真の地球はいつも真ん丸。 頭では理解していても ちょっぴり 疑問の気持ちもあり、半信半疑でしたが、かけている地球を見て、月の周辺から見ると やっぱ「地球」も欠けて見える。

ほんまに そんな中に 住んでいるのだと・・・



日本の月面探査衛星「かぐや」から撮影した「三日月のかけた地球」

白雲と青い地球

今までは google earth をみても 画像処理しているのだと思っていましたが、月のクレータの荒々しい表面と対比して、なんと美しいことか
ほんまにこんなきれいな天体なんだと・・・

こんな複雑な美しい地球 ほかにはない天体に住んでいる。

かけがえのない地球

みんな どこで 何やっても 地球人だと・・・と

初めて実感しました。

3. 大阪の西の守り 四層の天守閣と3層櫓の素晴らしい尼崎城の姿 (復元模型)

小さいときから 尼崎には城があり、司馬遼太郎氏の講演で「素晴らしい城」と聞きましたが、残念ながらその雄姿を示した絵も城郭の精密図もなく、その姿を見る

ことはできない・・・と聞いてきました。

そして 関東にいた2000年 千葉県佐倉の歴史民俗博物館で 尼崎城の描かれた西国街道の絵図をみて、いたく感激したことがある。

4層の天守閣が描かれていて これほんとうだろうか・・・とその姿に半信半疑も持っていました。

● 尼崎城

僕の故郷 尼崎で 小さい時に聞いた3櫓と連立して4層の天守閣を持つ美しい「尼崎城」の絵図を千葉県佐倉市の歴史民俗博物館で見つけました。

大阪の押さえとして 石高が小さいにもかかわらず勇壮美しい天守閣があったと聞きました。

実際に姿が描かれた絵図を初めてみました



国立歴史民俗博物館で見た絵図に描かれていた尼崎城
2000年1月 千葉県佐倉市で

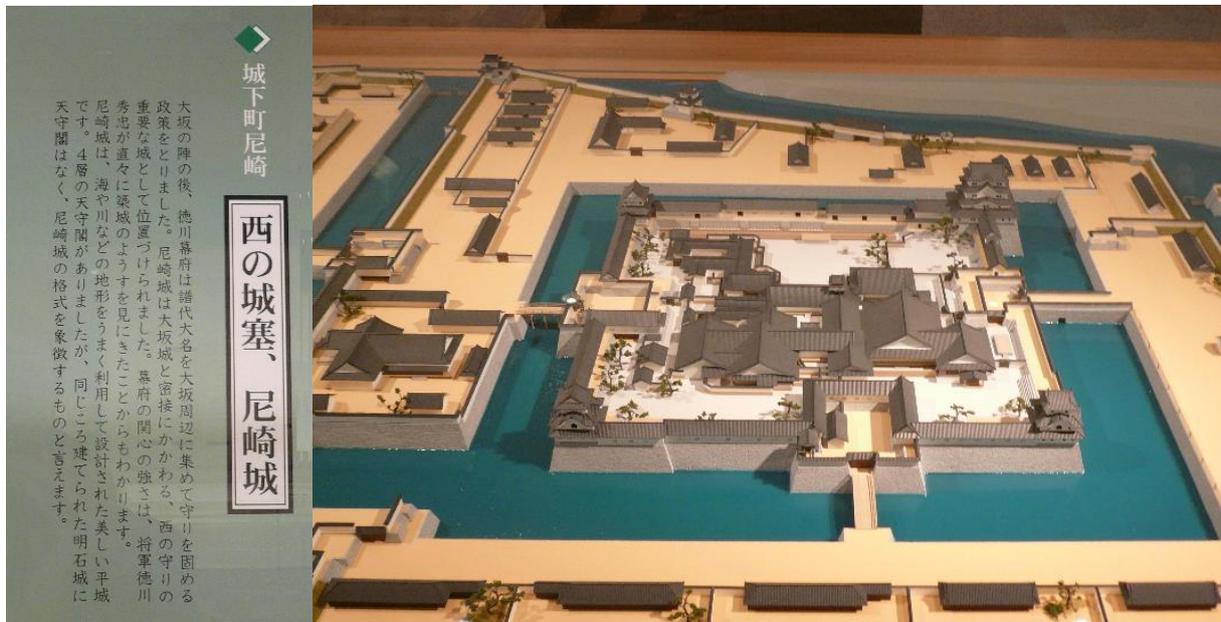
ところが、すごいもので、色々な古文書・絵図などをつなぎ合わせて、精密に尼崎城を復元した模型が尼崎信用金庫博物館にあると聞いて見にいってきました。

4層の天守閣と3層の櫓が四方を取り囲んだ本丸、海の出口である自然の川を利用した掘で二重に取り囲まれて海辺に立つその美しい姿は海からも眺めら、西からの目印でもあったという。

以前見た歴博の絵図そのままの姿が説明書に書かれている。私はこの景色みたぞ・・・と。

本当に4層だったのです。

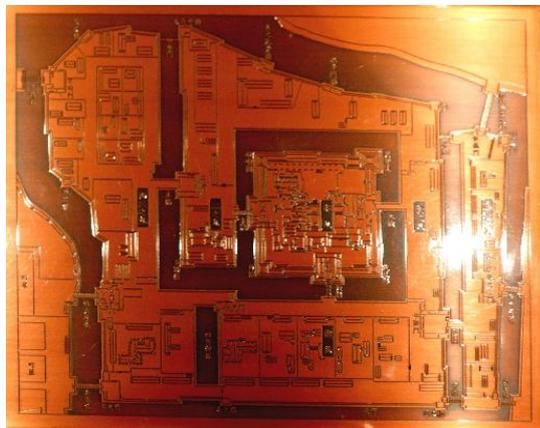
そればかりか すごいユニークな本丸設計 さすがに大阪城の西の守りを果たした自慢できる「城」だったのです。



城下町尼崎

西の城塞、尼崎城

大坂の陣の後、徳川幕府は譜代大名を大坂周辺に集めて守りを固める政策をとりました。尼崎城は大坂城と密接にかかわる、西の守りの重要な城として位置づけられました。幕府の関心の強さは、将軍徳川秀忠が直々に築城のようすを見に来たことからもわかります。尼崎城は、海や川などの地形をうまく利用して設計された美しい平城です。4層の天守閣がありましたが、同じころ建てられた明石城に天守閣はなく、尼崎城の格式を象徴するものと言えます。



近世尼崎城は1617(元和3)年、幕命によって築かれた。本丸は方形で、四隅に四重天守と三重櫓三棟を置き、周囲を多間櫓(長櫓)・堀で囲んである。本丸は二ノ丸・松ノ丸、東三ノ丸、西三ノ丸、南浜で取り巻き、要所に二重櫓を配したり、門を枡形に構えるなどして防備を固めている。

築城技術の最も発達した時期に建てられたもので、徳川將軍の江戸城・二条城や御三家の名古屋城に匹敵する施設、内容、規模である。天守・櫓・門などは古図や文献資料から建築構成が知られ、当初から存在したと考えられる。

本丸御殿は1846(弘化3)年に焼失したが、間もなく再建され、数飾り(上段・床・欄・付書院)や特有な平面で構成した広い書院を中心に、玄関・金之間・上料理の間・御居間・茶之間・台所など多くの建物が造営された。復元模型を見ると、堀を螺旋状にめぐらせた縄張形式の、いわゆる典型的な「平城」であることがわかる。そして、四面同形の整った外観を持つ天守をはじめ、隅櫓、威めしい門、堅牢な石垣、計画的に配置された 殿舎・侍屋敷・会所・米蔵・馬屋など、往時の雄姿を偲ぶことができる。

尼崎城は、1873(明治6)年の 廃城令により、天守閣、本丸御殿をはじめとする建築物が大蔵省(現財務省)から民間に払い下げられ、さらに石垣や堀なども近代の尼崎が工業都市として発展するなかで姿を消してしまった。今では北城内、南城内という地名、学校名にその名残をとどめているに過ぎない。

しかし、尼崎城と同じ時期にすっかり姿を失ってしまった各地の城に比べ、尼崎城の場合は天守閣をはじめとする建築物、敷地の形態、規模を記した絵図、文書が多く伝えられている。早くには尼崎出身である萩原一青の城絵図による復元もあった。

今回の尼崎城復元模型の制作にあたっては、尼崎城下絵図・尼崎分間絵図(二巻、表/裏)・本丸御殿部分間取図・本丸御殿屋根部分図(兵庫県立歴史博物館)など、桜井神社に残されている桜井松平家の資料を参考とした。

侍屋敷については、各地に残されている侍屋敷城郭古写真などを参考に、五軒屋の一つについては尼崎藩家老城家文書(旧尼崎市立中央図書館)の中屋敷平面図を参考に復元している。

監修 松岡利郎

監修 青手木 正



